明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十年六月一日發行（毎月一回一日發行）
女子青年界第十八巻第六號

THE Y.W.C.A. MONTHLY

女子青年界

六月號

要目

日本基督教女子青年會發行


消化と毒けし
仁丹
初夏の嬉しさ!!
若葉吹くそよ風
仁丹のみ乍らの散歩
金言
失望は痴人の斷案也
西諺

第十八卷第六號

女子青年界目次

大正十年六月號

▲會說▼

婦人之友社の三大雑誌

「婦人之友」

毎月一回 一日發行

一冊金四十錢 郵税一錢五厘

主幹 羽仁もと子

「まなびの友」

毎月一回 一日發行

一冊金廿五錢 郵税一錢

主幹 羽仁もと子

「子供之友」

毎月一回 一日發行

一冊金廿五錢 郵税五厘

主幹 羽仁もと子

東京雑司ヶ谷 婦人之友社 電話番町三六九八 振替東京一一六〇〇



女子大學講義

學生募集

『日本女子大學校の「大學教育普及事業（ユニバーシチー・エキステンション・ウオーク）」』

今が入學の最好機

四月愈開講＝初號出來—此の際入學の者は特に入學金を半減す—

特色

當代一流の碩學大家を網羅せる自由公開の女子大學講座

△大學程度の高等教課を以てする女子講義錄は本邦たゞ此れあるのみ

△日本女子大學校と同程度の學科を最新式の通信教授法に依り教授す

△學費僅に一ヶ月一圓五拾錢を以て一年半に大學程度の教育を修め得

△入學方法は單に住所氏名を記し入學金及び會費を送附すれば可なり

高尚なる學課を平易に講述し小學卒業程度の婦人も理解し得

至急要申込

見本申込次第進呈

初號要目

▼學長 日本女子大學校長 麻生正藏

▼學監 本大學教授兼帝大教授 文學博士 松本亦太郎

正科

- 發行の辭　本大學校長 麻生正藏
- 實踐倫理　本大學校長 麻生正藏
- 倫理學原論　帝大助教授 深作安文
- 現代哲學思潮　文學博士 桑木嚴翼
- 宗教の本質　青山學院教授 佐野勝也
- 心理學概論　文學博士 桑田芳藏
- 兒童及青年の心理　本大學教授 楢崎淺太郎
- 文學論講話　大學教授 阿部次郎
- 社會問題　本大學教授 友枝高彥
- 現代の世界　外務省參事官 杉村陽太郎
- 家庭生物學　理學博士 山內繁雄
- 庭園生活　林學博士 田村剛
- 食物の研究　本大學教授 井上秀子
- 服裝の研究　大學教員 佐賀ふさ子
- 育兒法　本大學教員 月田寬
- 家庭看護法　本大學教員 中村榮代

特別口座

- 婦人開放思想の源流　文學博士 厨川辰夫
- 獨逸民謠論　帝大助教授 成瀨清
- 國民文化史の研究　本大學教授 中村孝也
- 短歌の本質　茅野雅子
- 國文學の鑑賞　本大學教授 武島又三郎
- 講義錄の研究法　本大學教授 渡邊英

體裁

菊版二百五十頁

印刷鮮麗裝幀優雅

學費

入學金	壹圓五十錢
一ヶ月	一圓五十錢
三ヶ月	四圓三十錢
六ヶ月	八圓
一ヶ年	十五圓
全學年	二十二圓

發行所 東京目白臺 日本女子大學校內 女子大學講義發行所（振替東京六一二〇番）

第十六回

大正十年七月二十八日（木）夕より
同　八月五日（金）朝まで

靜岡縣御殿場東山莊に於て

女子青年會夏期修養會

申込所　日本基督教女子青年會本部
東京市神田區錦町一丁目十六番地
電話神田三六五二番

申込期日七月十五日迄

費用
會費金貳圓
滞在費金拾參圓


紳士の美髪法
カテイ石鹸
クラブ洗粉
クラブキニーネ
クラブチック
クラブポマード
英姿颯爽
御健康の爲に……
學理上實驗上一番齒の爲に良い
クラブ齒磨を
美髪用フケとり香水
クラブキニーネ香水

女子青年界 第十八卷六月號 大正十年六月一日發行

會說

「時」の說

河井道子

「時は金なり」といふ標語は餘り平凡過ぎて、寧ろ滑稽な意味に使用されて居ります。然し金以上のものに時の價値をあてはめると、眞面目に此事を考へるやうになりませう。諸所に旅行して見ますと集會毎に「此所は某々の時間ですから」とて定刻より遲れること半時間、時には一時間近い遲刻の詫び言に使つて居ります。初から待たされる事は大迷惑で、それからそれへと遲くなり、終には婦人會等に出ると時がかゝり過ぎるといふて折角出かけた人々さへも引込むやうになります。然しどんな寒村に行きましても學校はやはり時間通りに始まり、時間通りに終ります。此學校教育の習慣をどうしても家庭・社會の習慣としなければ教育の大意義を失します。勿論餘り時間時間といふて齷齪する事は謹しむべき事でありますが、學校を出た者達は、家庭・社會に時間勵行をなさなければ、如何に立派な持論を有つて居ても、其實行は容易なことではありません。

斯る事は婦人雜誌等に度々出て居る事であります

が、吾々は基督教の立場から此事を至極眞面目に考へる必要があると思ひます。唯時は金であると思ふ所から、損する位にしか取れませんが、之は己れの損といふに止まらないで、如何に他に影響するかを考へる時に、非常に眞面目な責任になります。

一人の婦人が喘ぎながら走つて會議室に來て、「私はいつも遲れる人間です」といひながら、半時間も待たせてあつた人々に挨拶の樣にして入つて來ました。此婦人は愛嬌のある人で誰でも其人に對して腹が立てられないといふやうな魅る力のある人でした。併し其所に數人の忙しいものが三十分も待つて居たが爲一人の人は憤然として、

「貴女は、何故それが御自慢ですか」と切り口上で問ひつめますと、婦人は非常に驚き叉感情を害していふには、

「まあ皆さん、私が時間に遲れるといふのは、常例の事と知つてなさる筈でせうのに」なんて甘へたやうな樣子で言ひました。先の人は形を正して

「貴女は遲れることに骨折る人でせう、毎日おくれるやうに仕度をなさると仰有るわけですね、それは貴女には面白いかもしれませんが、それで評判をよくしやうとお思ひになるのは大間違ひです」といふやうな會話で折角の座が非常にしらけて終ひました然し咎められた若い婦人は、その後注意したので大いに感謝したそうです。

若し私共が十人の人を半時間待たせたなら、つまり五時間人の時間を無駄にさせた譯になりますし、五十人居つたとしたら一日以上の時間を空費した事となります。近頃出會つた一つの實例を申上げませう。過日一人の有名な婦人を中心として二三十人の人が招待されました。斯る人に會ふを光榮とするもの、また交際の立場から、或は義理から、招かれたものは忙しい晝間の時間を繰合せて其家に參りますと、中々正客は見えません。主人公は氣がきでなく何邊となく玄關と客間の間を往復して正客を待ちあぐんで居られました。集つた者は大抵自分の務めを

有ち責任のある者共でなか〳〵時間に餘裕はありません。多忙[illegible]と其賓客を待つて居るわけには參りませんでした。終に此方からやつとの事で電話を通じ其來否を問ひますと、行かうと思つて居るが又突然數人の人が來て話しかけなか〳〵出拔けられない、も少ししたら行けませう、との返事です。猶待ち續けましたが、正客の影は終に見えないので、大概のものは晝間無駄遊びも出來がたく、散會して終ひました。其主人公の不面目さは實に氣の毒な程でありました。例へ訪問者があつたとしても、先約した所に既に大勢が待つて居るといふ事を聞いた以上は、何故訪問者に斯く〳〵故と、斷はる勇氣がないでせうか。又訪問者も其主人側の者が先約があつて出先だと聞けば遠慮して立去るが責任でせう。然るに自分達が面白いからとか、利益があるとかいふ事から他人の迷惑は少しも意とせず、人の厚意を無視するやうな其性格は實に嘆くべきものであります。

斯く申せばとて私共各自も知り知らずの中に同様の罪を犯すことがあり勝です。此を矯正して唯時は自分の金とのみ思はず、他人の金と思ひ、我故に他人に損をさせる事はなすべきことでないと同様、時間に於ても此一事は大いに謹しまなければなりますまい。此精神は、歐米の婦人間、殊に基督教の婦人間に鋭い時間責任觀を起しました。例へば一人の婦人が何かの會の評議員に擧げられるといたしませう其婦人は某月某日に其會の評議員會があるからとの通知を受け、出席するとの返事を出した以上、眞に不止得事故でない限りは、それに出席いたします。之は恰も何かの事業に幾額かの寄附をすると約束したならば、其約束は不止得事故のなき限り必ず履行すべき責任があると同一です。若し私共が教會なり慈善會なり社會事業なりに義務金をだす、或は寄附の約束ある場合、他に買ひたいものが出來たからとて、其約束額を減じたり、或は中止したりするものは殆 ありますまい。此樣に約束の時を守るといふに於は時は確に金であります。

さて時を金と同じに物質的にのみ考へられません時を充分に使ふ必要の場合には吝みなく使はねばなりません。英語の讃美歌に "Take time to be holy" といふのがありまして、私共の性格を精練し向上せしめやうとするには時間を十分に與へなければならない事です。然るに或人は時間勵行といふやうな意味を矢鱈に持ち出して、靜思などといふ事には五分もかけるかかけないやうな有様であつたり、教會には行くが、それ以上自己の靈性を養ふ爲何の時間も取らない、或場合は忙しいからといふ口實で精神上のために全く時間を取らない人も澤山あります。之等の人は金の爲には時間を大事にするが、吾等の限りなき生命といふ事の爲には時間の觀念のない人でまるつきり間違つた時間の觀念を有つて居る人といふべきでありませう。如何なる事の練習にも時間がかゝるのですから、私共學生と云はず、家庭の人、社會の人といはず、神聖といふ神の姿に似る爲、又神の如く働くものになれる爲に、十分の時間を與へる必要があります。

之等の事を考へて、夏は休む時、氣を轉ずる時といふ如き事にのみ心を止めず、其幾分を裂いて修養會などに出るといふ事は 即 私共の進歩に入用の事でありませう。

前述の事を一言にして云へば、吾々が約束の時間を守るといふ事が、人に對しても、神に對しても必要であるといふことと、友情を暖め、智識を求め、靈性を富ます等といふには十分に時間をかけねばならぬといふことなのであります。普通の事柄ですけれども之を實行するやうにならなければ、眞個に進歩といふ學校には不合格者であることを悟り度と存じます。

此稿を書き終へし時、約束嚴守の善き實例をきゝ及びたり。當會の一米幹事、或夏(米國にて)修養會に講話を依賴され承諾せし後一友より費用全部を支辨する故歐洲の旅行に同伴せずやとの招待を受けたり。多く與へられぬ好機とは思ひしかど、先約の修養會の講演の爲辭したりといふ。

約束の子（外一篇）

二階堂眞壽

宗教の貴族主義と呼ばれるかも知れませんが、約束の子とか殘りの者とか、選ばれしものといふ聖書の慣用語がどうも眞實であるやう思はれます。それに就いて渡島順序を追ふて述べてみよう。

さて舊約聖書に現はれてゐる神は、外からみるとかなりに不公平な神さまです。カインとアベルに就いてみてもさうではありませんか。アベルの捧物は悦んで受け納れられながら、カインの捧物には顏をそむけなさる。聖書をみてもカインのどこが惡いのかちつとも記してない。註釋家はカインの捧げ方に即ち捧ぐる儀式に落度があつたのだと言つてゐる。けれども捧げ方の落度位は大目にみて下すつて、どうでもよかりさうなものである。惟ふにカインはその心持が神に愛されなかつたので、捧げ物そのものや捧げ方が惡かつたのではなからう。カインは自分としては何んの不都合もないのに省みられないから甚だしく怒つて其の面をふせたといふことには、いかにも同情してやりたくなるのである。多分アベルはカラマゾフのアリヨーシヤのやうな性格で、カインは兄のイヷンのやうな人に愛されない性格であつたらうと思はれる。カラマゾフにそんな所を暗示して居る句がある。（米川氏譯上卷五五〇及び創世記四章九節參照）　自分が持つて生れたとは云へ、自分が勝手に造つたのでもない性格に對して我々は皆責任を負は

されてゐるのは、實に不思議な感じがしてならない。

次に舊約の神はアブラハムとサラ及びアビメレク王に就いても不公平である。アブラハムがサラを妻でない妹だと欺いたのにも拘はらず、アブラハムには何の責罰もなく、アビメレクは危くひどい目に遭ふ所であつた。

「我何んの惡しきことを汝になしたれば汝大いなる罪を我とわが國に蒙らしめんとせしか、汝爲すべからざる所爲を我になしたり」（創世記二〇・九）と言つてゐる。神樣はアブラハムを大變贔負してゐるが何んの惡しき所ありてかアビメレクには偏頗である。

この時代に於はどうすれば、神の嘉納を受け、どうすれば神の怒りを買ふのか、その標準がわからなかつた。人から見れば神は全く專政者で、任意な氣紛れで賞めたゝ罰したりするやうに思はれた。それでひたすら神意に適ふやうにと戰々競々小心翼々として努めた。正しいことをしてゐると思ひながら、いつ神の罰がくるか解らない。恁うすれば神に悅ばれ恁うすれば、神に叱られるのだといふ規準が人には分らなかつた。それで神を畏るゝは智慧の始めと言はれてゐるほど、たゞ神を畏るゝ事が甚しかつたものらしい。モーゼでさへも割禮を受けてゐなかつたので突然殺されやうとしたこともある。（出埃及四の二四）

士師記時代より列王の時代になつても神の不公平はやはり續いて居る。例へばサウル王とダビデの記事を見ても、サウルは神より來る惡鬼によつて心をにぶくせられ、惡人にさせられる。（サムエル前十六ノ十五） しかるにダビデは、祭司の外、食ふまじきパンを食べたり、ウリヤの妻と不義を犯したにも係らず、特更に恩寵が多かつた。ダビデは詩篇三二に、「不法を免され、罪を蔽はれたる者は幸福なるかな主が罪を認め給はぬ人は幸福なるかな」と歌つてゐる。パウロもこの詩句を、行爲なくして、信仰に依つて神に義を認めらるゝ人の幸福に就ての例として擧げてゐる。（ロマ書四ノ六―）

すなはち神から選ばれたものは、過失や罪を犯しても神はそれを認めず、見ぬふりをなさる、否むしろその罪を蔽ふて下さるといふのである。一體どういふ人が神から斯くも愛せられ、どういふ人が神からかくも嫌はれるのであらうか。必しも正しい行爲、善良な意志を持つて居ても、神から愛せられず、假令罪を犯してもまた神から遁れ樣とする意志などを持つてゐてもある人々は神が殊更に愛せられる。何が一體神の寵遇を受くる標準なのであらうか。それは私共には分らない。人間には所詮知ることの出來ぬものなのであらうか、ある人々は何故か神から愛せられて居るのである。しかるにある人々は神から何故か呪はれてゐるのである。聖書では「約束の子」らのみが愛せられるのだと言つてゐる。呪はれてゐるものは沈淪の子だと記されてゐる。

「その子いまだ生れず、善も惡もなさぬうちに、神の選びの御旨は動かず、行爲によらで、召す者によらん爲めに「兄は次弟に事ふべし」とレベカに宣給へり。「われヤコブを愛しエサウを憎めり」と錄されたるが如し」と（ロマ書九、六―一三まで參照あれ、改譯聖書の方よし）

自分はその約束の子として生れて來てゐるのであらうか。それとも嫌はれ、憎まれる捨てられた子として生れて來てゐるのであらうか、考へて見ると怖しくなる。所詮われわれのどうすることも出來ないものであると思ふと、自分を哀しまず、また他人をもとがめぬやうな心持ちになる。神はそのみ心に從つて或人々をば幸福にし、或人々は不幸に陷れられるのである。

私共はこれだけのよい行爲をしたから、それだけの善意志を以て奉仕したから、選んで下さい。救つて下さい、幸福にして下さい、と言つてはならないよき行爲なき罪人も愛せられるのだ。

「神はその憐まんと欲する者を憐れみ、その頑固にせんと欲する者を頑固にし給ふなり」である。

セント・オーガスティンの所謂豫定說は事實であ

るやうに思はれる。
　神から愛せられる美しい性格を持つたものは實に美しい限りである。選ばれて恩惠まるゝものは實に幸福である。しかし眠れる心、見えぬ目、聞えぬ耳を與へられし鈍くせられたるものは、禍ひなるかなである。（ロマ書十一章七節）
　そこで私は恁ふ思ふのである。人の救はれるのも選ばれるのも、約束の子となるのも人間の功績によるのではない。たゞ神の恩惠に依るのである。そして誰が選びに預かるか人間には解らないのだ。神は此石ころも立てゝアブラハムの子となし給ふのである。私はこれこれの立派な事をして居るから救つて下さいと神に強いることは出來ない。むしろ私は、ほんとにいたらぬもので、罪深いものです。あなたの子と稱へらるゝに足らぬものです。わが不束をお許し下さい、と云ふがよい。うはべでなく心から善をはげめ、救はれるためにパリサイの人のやうに戰々兢々として、律法をコセ〳〵守るのではだめだ。衷心から悔い改めて神を信ぜよ。神にまかせよ。そして最後迄忍べ。さうすれば神は必ず救つて下さる選んで下さる。たとひさうして救はれず、選ばれずとも、私共は神さまの前で言ひ譯が立つ。たゞ主のみ名をほめよ。エホバ與へ、エホバ取りたまふ。エホバの名をほめよ。

花は

「花はいかにしてその美を發揮することが出來たか？」
「花は自然の命ずるまゝにすなほに生くることによつて。たゞそれだけだ」
「なぜ人間は花のやうに自然の命ずるまゝに生きられないか」
「人間は自然の命令に逆くことが出來るからだ。花はたゞすなほに受け入れる外に知らない」

英 文 欄

The Most Beautiful Thing in The World

Tell me what is the most beautiful thing in the world?

"Oh," you may say, "the mountains near my home; in summer hey are dark with deep shadows, and in winter they are pure with the glistening snow"

"Oh, no," some one else will say, "it is a lake I have seen, set deep in among colored hills, so blue that it looks as though some of the sky at night had been spilled into it, so lovely with the white sails of the ships that it makes me catch my breath. That is surely the most beautiful thing in the world!"

"No, no," says another, "it is a flower that is in our garden,–its color is a marvellous pink, so delicate that it is like the flush on a baby's cheek, so exquisitely formed that as we gaze upon it we think of the power of God, so fragrant a tiny whiff of it brings a singing sense like music. That is the most beautiful thing in the world".

"No," says my little sister, "it is my mother's eyes when I come home from school. They are all shiny and deep and loving. Nothing can be more beautiful than they are."

Who will be the judge?. Can you find any one thing that is the most beautiful thing in the world? Will everyone agree with you?

No, everyboby won't, for our idea of beauty is not only in form and Color, it is in memories and knowledge and feeling. And everybody has different memories and different knowledge and different feeling. Sometimes to each of us comes a wonderful experience when the heart is filled with a great flooding joy, and we believe we have found real beauty.

Men who live all their lives in the mountains are very often not conscious of the beauty there, until some experience makes them see with new eyes all the loveliness in the world about them. Men riding for days over a prairie where there are no mountains, sometimes come to feel a deep wonder and beauty in the world, in the level place which stretches for miles and miles around him. If you told that man felt this' that mountains are the most beautiful thing in the world, he would tell you that you do not know.

A gardener has a brown rusty-looking bulb which he thinks is beautiful' for he sees not the bulb itself, dull and homely,–he sees the wondrerful fragrant white lily that is to come. Nothing is more beau-

tiful than that, says he. You don't know.

One day when Jeremiah was walking along a country road, he felt God call him to help his people. "Oh!," he said, "I am but a child, I cannot". And then he saw in front of him an almond tree with buds upon it, just ready to burst. Then he realized the wonder of the unfolding beauty of that bud, and he knew that his life, too, could unfold into new strength and beauty. The most beautiful thing in the world to him was the unfolding of that bud, which showed him the power of God in his own life.

And the prophet Isaiah sat one day in the temple looking at the carving and the ornaments there, when suddenly with color and music, everything was changed and he felt the presence of God there. The temple was filled with the glory of God. He, too, said, "Here am I, send me."

They say that if you could find the end of the rainbow, you would find a pot of gold there. But you must climb in the beauty of the arch, which has all the color of the world in it. Along a path of beauty to find the gold at the end. Are you ready and brave enough to follow to find the shining beauty at the end? For everyday, no matter how unhappy you are, you must find something that you think is beautiful, and put it into your soul. Someone said, "If I had two loaves of bread, I would sell one to buy violets to feed my soul". Yes, we must be willing to give up some comfortable things to follow the rainbow, to climb to the place where the glory of the Lord fills all the earth.

To the prophets of old the most beautiful thing in the world was the living presence of God,– a living, radiant beauty that was in branch and tree and in human life. Follow it, follow it, follow the gleam that you see in life! Hold on to the beauty you find each day, until it becomes a part of your life, and sometime will come that experience of God, when you will say as Isaiah did, "Here am I, Send me."

Out of a brown and rusty bulb may come a beautiful lily, out of your and my humble little place in the world may come a shining beauty that God meant to be there. You do not remember the rusty brown bulb when you see the beautiful lily, all white and pure. Do you think that God sees only the rusty, homely outside of us,–the loneliness, the failure? No, He is looking on the beauty we are storing in our heart, that will someday burst into purity and whiteness, forgetting the brown bulb.

"Here am I, send me," and Isaiah's ordinary life like yours and mine burst into a wonderful beauty, and he shared in the most beautiful thing in the world, the glory of God filling all the earth.

"We look for the Saviour, the Lord Jesus Christ, who will change our vile body that it may be likened unto His glorious body",

聖書研究

ピリピ書講解（十）

佐波亘

□今回はピリピ書三ノ十二以下です。この講義も既に一年に亘りさなきだに力のない筆は徒らに下手の長談義ですから先きを急ぎます。

□こゝに「われ既に取れり、既に全うせられたりと言ふにあらず、唯これを捉へんとて追求む……」（十二）とあります。キリストは山上の説教に於て「然らば汝らの天の父の全きが如く、汝らも全かれ」（マタイ傳五ノ四八）と仰せになりましたが、クリスチャンの終極の理想は天父の如き完全であります。然るに實際私共は罪のために甚だ不完全であつて、この理想と相距る甚だ遠いのであります。

□徳則廢棄論者はいはゞその日暮し、行當りばつたりな道徳生活を高調します。善惡なんて定まつたものではない。昔は仇討が賞められたけれど、今日では誰も感心しない。つまりこの世に於ては何が終極の善であるか惡であるか私共には到底定められないのだ。だからその日その時、たゞ自己の良心で判斷して自ら善しとするところを行ふの外はないと言ひます。

□ノスチック教理では、靈と肉とを別々に切り放して、私共は靈に於て神と交通してさへ居るならば、肉に於ては何を爲やうが一向に關係はないと言ひます。彼らは心だにまことのみちにかなひなば……それでよいと言ふのです。少々皮肉ですが事實その連中はさういふのです。ダイヤモンドははきだめの中にありてもダイヤモンドだ。身はたとひ不潔な場所

に踏み込んで居ても、心の中に神をおもひつゞけるならと言ふのです。肉は何を爲てもと言ふのです。

□またクリスチャン・サイエンチストの或人々は、罪の實在を否認します。また進化論者の或者は罪を道德上の問題として取扱ひません。罪は單に動物が繼承してきたに過ぎないもので、從つて私共に責任といふものはあり得ないと言ひます。

□パウロは言ひました。現在の自己は勿論不完全であつて、理想を相距る甚だ遠いけれども、日夜專念して完全の域に達せんことを祈つて居るのであるとかくて彼は自己の不完全を承認しました。即ち自己は不完全ではあるけれどもやがては完全の域に達すべきことを確信しました。そこで「われ既に取れり既に全うせられたりと言ふにあらず、唯これを捉へんとて追求む……」(エペソ書三ノ一七—一九、四ノ一三—一六、コロサイ書一ノ二八を)

□こゝに「追求む」とあります。こゝにはボートでいへばゴールをめがけて力漕する時の心地があらはれて居ます。それは決して目標のない、決勝線のない競技ではありません。たゞ空に力んでるのではありません。

□それから「キリストは之を得させんとて我を捉へたまへり……」(二十)とあります。パウロの確信はこれあるによつてです。それは實に「キリスト我を捉へたまへり」であるからです。たとひ現在は小學であつても良い教師に指導されて居るうちに、いつの間にか大學へ進み行く學生々活のそれのやうに、二二が四も危うげに見ゆる兒童が天體の距離を易々と算出し得るに至るそれのやうに、私共自己獨りでは覺束ないけれども、「キリスト我を捉へたまへり」です。自己が信仰心を起したのではない。キリストが自己の信仰心を起して下すつたのだから、到底もこの不完全なものが完全なものにはなれぬなど〻絶望はせぬ。必ず完全な者になれる。

□次に「兄弟よ、われは既に捉へたりと思はず、唯この一事を務む、即ち後のものを忘れ、前のものに向ひて勵み、標準を指して進み、神のキリスト・イ

エスに由りて上に召たまう召にかゝはる褒美を得んとて之を追求む……」(十三)(十四)とあります。「唯この一事を務む」です。人生に於けるすべては「唯この一事に歸着するといふのです。一切皆悉くこゝに集中するのです。それは私共の生活々動の全部が「この一事」のためであるといふのです。人生の目的それは實にこゝにあるといふのです。それは競走者が一心不亂に走るやうに、前途にはたゞ決勝線あるのみといふのです。そこには少しも後を顧みるの遑がないのです。パウロはコリント前書九ノ二十三以下に「なんぢら知らぬか、馳場を走る者はみな走れども、褒美を得る者の、たゞ一人なるを。汝らも得んために斯く走れ、すべて勝を爭ふ者は何事をも節し愼む、彼らは朽つる冠冕を得んが爲なれど、我らは朽ちぬ冠冕を得んがために之をなすなり。斯く我が走るは目標なきが如きにあらず、我が拳鬪するは空を擊つが如きにあらず……」と言つて居ます。彼はまたテモテ後書四ノ八に「今よりのち義の冠冕わが爲に備はれり。かの日に至りて正しき審判主なる主、これを我に賜はん……」と言つて居ます。英國に遊んだ人の話に、牧場の上遙かに高く舞ひ上つた雲雀が、聲高らかに歌ひつゝ雲の中天へ沖のを見たことがあると。クリスチャンの生活も亦斯くの如きか。

□通常神祕主義の危險は、それが濃霧に閉されたやうになることです。それは現實の世界が見えなくなることです。然し乍ら基督教の神祕主義はさうではありません、それはどこまでも現實に即して現實を離れません。それはイエスがペテロ、ヤコブ、ヨハネを伴ひて上られたあの變貌の山から、再び苦惱の巷へ下で來られたそれのやうに、また天に沖つた雲雀が再び地に下て來るそれのやうに、さらに例を擧げて言ふならば、彼のマルチン・ルーテルが修道院から家庭へ歸つたそれのやうにあることです。即ちそれは現實の世界から遠く離れないのです。ラゲ譯には三ノ十五以下を「然て完全と成る「に進む」我等は、志す事皆斯の如くなるべし。汝等若何等かの異

議あらば、神は之をも汝等に示し給はん。但既に至れる所よりし、我等は進むべきなり。」（ラテン譯には「受けし規則を守り意を變へず後退せざるべし」とある）とあります。

□次に「おのが腹を神となし、己が恥を光榮となしたゞ地の事のみを念ふ」（十九）。これは現代の社會狀態を寫眞にして見るやうではありませんか。人は齒で墓を堀りつゝあると言つて宜い。パウロは「それ神の國は飲食にあらず、……」（ロマ書十四ノ十七）と言ひましたが、世の多くの人々は日もこれ足らずに肉慾の滿足を念として居る狀態ではありませんか。要するに彼らの誇りは道德上のそれではなくて、却て不道德上の事情です。それは俗に恥かしくもなく、臆面もなくといふやうな事情ではありませんか。彼らの生活は天に冲るどころか地の事のみを念ふのであつてそれは恰も地の上をはふ蛇のやうな生活であり、それは決して天に冲る雲雀のやうでないのです。淺草公園の活動寫眞館にはなだれをうつて人が入込むのに、敎會の會堂にはまことに寂寥々たる人の出入を見るといふ狀態ではありませんか。日曜日のベースボール・マッチには人が黑山をなせども會堂には空席が多いといふ狀態ではありませんか。

□然し乍らそこにはまた眼の向けどころが違つてる人が居ます。ウッドロー・ウヰルソンの語を借りて言へば“forward-looking men”が居る。彼らは天を見る。前を見る。内を見る。

□次に「されど我らの國籍は天に在り……」（二十）です。なんと力ある語ではありませんか。若しも私共にかゝる信仰があるならば、どんなに強くあり、どんなに愼み深く、またどんなに平和であるでせうかかゝる人は乾度地の事を思はないでせう。それはとにかくイエスはピラトの前に立ちて「わが國はこの世のものならず、若し我が國この世のものならば、我が僕ら我をユダヤ人に付さじと戰ひしならん。然れど我が國は此の世よりのものならず」（ヨハネ傳十八ノ三六）と仰せになりました。これも其意味でせう。

□それから「我らの……」（二十）とあります。信ずる

者一人一人のです諸君と共にです。この邊は「おのおのが腹を神となし……」とはだいぶ違ひます。また「天に在り」(十二)で、それは現在からの關係です。死後の生活は勿論ですが、私共は現在さういふ關係にあるといふのです。

□然らばそれはどんな生活であるかと言へば「信仰に由りてアブラハムは召されしとき嗣業として受くべき地に出で往けとの命に遵ひ、その往く所を知らずして出で往けり。信仰により異國に在るごとく約束の地に寓り、同じ約束を嗣ぐべきイサクとヤコブと共に幕屋に住めり。これ神の營み造たまふ基礎ある都を望めばなり…………彼らはみな信仰を懷きて死にたり。未だ約束の物を受けざりしが、遙かにこれを見て迎へ、地にては寓れる者なるを言ひあらはせり…………彼らの慕ふ所は天にある更に勝りたる所なり……」(ヘブル書十一ノ十、十三、十六)とあるやうな生活がそれです。

□ヨハネ默示錄には「死もなく、悲嘆も、號叫も、苦痛もなかるべし……」(二十一ノ四)とあります。「神、人と偕に住み、人、神の民となり……」とあります。これが「我らの國籍」の在るところです。モファット譯には But we are a colony of heaven, となつて居ます。私共のこの世の生活は恰も出稼ぎ人、移民殖民と言つたやうな關係の者なのです。私共にははたらくだけはたらいて、一日も早く歸りたい故郷があるのです。當時ピリピは羅馬の一殖民地であつてパウロ自らは羅馬の市民でしたから、彼はこれを誇とし、且つこれによつて少なからぬ利益をもうけたのでした(使徒行傳十六ノ三七―三九、同二十一章二十二章)。ですから以上述たやうな考へ方は、決して夢のやうな話ではなく、またピリピの人々にもよくわかり、且つつよく觸れる感じであつたのです。

□すでに私共の國籍が天に在るとしたならば、また自ら私共の生活にはそこに天に屬する氣風が表はれて居なくてはなりますまい。言ひ換れば私共の生活にはキリストのやうな品性と趣味とがあるべきでせう。

□ヒュー・ブラックの近著 The Cleavage of the World といふのに、「眞正の愛國心と虚僞の愛國心」といふ一章があつて、愛國心の好きな我が同胞に是非讀ませたいと思ひました。勿論それは國際聯盟の精神を促進するために、褊狹な愛國者流の蒙を啓くに役立つ文章であります。けれども眞正の愛國心といふはどうしても彼のイスラエルの預言者たちが絶叫したそれのやうに、天國を愛するの精神に基かなくてはならぬと言つて居ます。それからこの講義の參考書であるロバートソンの著書には斯う言つてあります。―― The true patriotism is the hunger for and loyalty to the real Fatherland, for heaven is our home.

□それから「我らは主イエス・キリストの救主として其の處より來りたまふを待つ」(二十) とあります。こゝでは再臨問題を研究して議論をするのではありません。たゞ簡單に本文の意味を述べるのです。それはキリストが着手された救の事業を完成されるためには、キリスト自ら救主として再びこの地上に臨まれるといふのです。といふのは實際かゝる必要があるからです。悲しいかな、現在のこの世界の狀態では、キリストの事業は充分に完成されて居ません。十字架の光は遺憾なく發輝されて居ません。殘念なことには光は遮られて居ます。そしてそれが爲めに幾多の聖徒、殉教者が出で勵みて忠誠をぬきんで、キリストの御威光が天地に普く照り輝やかんことを祈りました。否、現にそのために幾多の人々が力をつくして祈つて居るのです。私共は「父よ、願くは御名の崇められん事を。御國の來らん事を……」(ルカ傳十一ノ二)と祈つて居るではありませんか。それは恰も徳川時代の末期にあたりて志士國士といつたやうな人々が、王政維新の日を夢みて、それがためには妻は病床に臥し兒は飢に泣いても立つたやうに私共も及ばずながら小さき十字架を負ひつゝひたすらその日の到來を待つて居るのです。一日千秋の思でわが信仰生活は實に「待つ」生活です。それは決し

て道徳規則を正しく遵奉するといふに止まりません。それは實にお待ちうけをすることです。それは多分シンガポール邊へ行つて居る我同胞が、この度皇太子殿下をお迎へした場合のそれのやうな心地であると言つたらよいでせう。通常それを Blessed hope. と稱ます。それはとにかくこの望を抱く者の生活はどんなでせうか。それは必ず聖なる生活であるにちがひない。また戰に勝つ生活であるにちがひない。

□或人はそれを自己の眼の黒いうちに實現すると信じました。またある人は然かく信じて失望した者もあります。そして今やかゝる希望の光は全く消え失せんとして居ます。然しながら「愛する者よ、なんぢら此の一事を忘るな。主の御前には一日は千年のごとく、千年は一日のごとし。主その約束を果すに遲きは、或人の遲しと思ふ如きにあらず……主の日は盜人のごとく來らん……」(ペテロ後書三ノ八一)であります。

□かるが故にキリストは「さらば目を覺しをれ」(マタイ傳二十五ノ十三)と仰せられたのです。この場合パウロの言はんとするところも亦それに外ならぬでせう、

□「彼は萬物を己に服はせ得る能力によりて、我らの卑しき狀の體を化へて己が榮光の體に象らせ給はん」(二十一)。それは天國に住みよいやうな衣を着せて下さるといふのです。それは新しい環境に適應した衣を着せて下さるといふのです(ロマ書八ノ二十九)。勿論クリスチャンは現在すでに衣更をして居ます。たしかに信仰のなかつた昨日と、信仰をもつ今日の自己の姿とは大いに變化して居ます(コリント後書三ノ十八)。それはとにかく「榮光の體」とはさてどんなのかといへば、それは變貌の山に於けるキリストの御姿によつて略察することも可能ませう。ヤコブ書には「榮光の主なる我らの主イエス・キリスト」(二ノ一)とあり、ヨハネ第一書三ノ二には「愛する者よ、我等いま神の子たり、後いかん。未だ顯れず、主の現れたまふ時われら之に肖んことを知る。我らその眞の狀を見るべ

けれぱなり」とあります。

□それから基督教ではキリストが「萬物を己に服はせ得る」日が必ず來ると信じます。言ひ換へればキリストの意が遺憾なく行はれる日が必ず來ると信じます。天地は失せるの日があるかも知れません。然しながらキリストの約束は必ず成就するものと信じます。

□パウロはかくまでにキリストにある「能力」を信じました。彼は自己の回心前後を考へてみて、キリストの能力の偉大さを斯くの如く感じずには居られなんだのでせう。そこで彼の經驗から歸納し結論して、遂にキリストが「我らの卑しき狀の體を化へて己が榮光の體に象らせ給はん」と言ふに至つたのでせう。私共は口にキリストを信ずると言ひますけれども、私共は果して彼の能力をどの位に信じて居るでせうか。

× × × × × × × × × ×

信仰

□人を信ぜんと欲すれば初めより彼を信じて掛からなければならない。而して彼を信じてのみ初めて彼の心はよく解るのである。信は人の心を開くための唯一の鍵である。

□神を知るの唯一の道は信仰である。其恩澤に與るの唯一の方法は信仰である。愛を識り愛に近づくの唯一の道は愛である。而して信仰は愛の一面である。

□單純なる信仰、信仰のみの信仰、結果に目を注がざる信仰、信仰のみを以て滿足する信仰――此信仰が有つて信者に初めて眞の平和が有るのである。實に欲しき者はキリストと彼の十字架の外に信仰の理由を求めざる信仰である。

□人が其全注意をイエスキリストと彼の十字架に集むるに至て彼の思想は統一せられ彼の心靈は自由を得て復活し彼は全身の翼を張りて宇宙に濶步するに至るのである。―研究第二の十年より―

柊花集

柊

○

菊つくり菊の奴とならであれ
うたよむ我も心してよめ。

七日目に通ひなれたる神の道
彌生となれば春日かけろふ。

七日目の朝の拜みのうれしくて
待たるゝまでにみちびかれぬる。

わが内にもゆる火ありて吾を燒く
神のみ前に我を燒かんす。

おん惱いかにましけん吾はしも
薄心にして身にわきまへず。

鐘はなる淸きみ堂に我主今
よみがへる日と高く鐘なる。

○

涙しぞ救はれし身の捧げなり
主よみそなはせ只かくてあり。

したふべくほめまつるべく餘りにも
うれしかりけり父のみ惠み。

弱ければ人の愁にまきこまれ
こゝろよからぬ春の夕ぐれ。

願はくは捧げまつるにふさはしき
女の歌ときよめましませ。

プレシコフスカヤ（抄譯）（五）

森田松榮

或時、プレシコフスカヤは、泊つてゐた家の小さな女中のお饒舌から、警官に睨まれて、革命文書を發見され、拘引された結果、遂に獄に投ぜられた。彼女は云ふ。（彼女は囚房への黒い穴を降りた）

「私は押し込まれた、重い戸がガタンと閉まつて、眞暗闇の中で錠がガチャリと鳴つた。一足出ると私は辷つた、床が糞尿でヌル〳〵してゐたからだ。私はじつと立つてゐたが、たう〳〵氣持がたまらなく悪くなつて、藁と襤褸とを積んだ上にぐつたり倒れて了つたが、ひどく刺された痛さで正氣に歸ると虱だらけなので、私はとび上つた。壁に凭りかかると、それは濡れてゐた。私は夜つぴて、穴の眞中に立ち通しでゐたが、これこそはシベリア行きの初まりだつたのである。

彼女は裁判を待つ間、隨分長くペテログラードの監獄に移されてゐた。囚房は、縦九尺、横五尺、高さ七尺。清潔で上の穴から充分空氣が得られた。寢臺は鐵で、筵と藁枕と、目の粗い鼠色の毛布と、粗末な敷布と、枕巾とがあつた。彼女は私有の着物をきて丸二年餘り其所に入れられてゐた。

一八七八年に彼女は審問された。同時に裁判された在獄者は百九十三人であつた。在獄者は三百人もゐたのであるが、獨房制の孤獨が心身に及はす影響や、他の原因やで、百人餘りは獄中で死んだり精神が錯亂して了つたりしてゐた。百九十三名は、血の氣なく衰へてゐたけれど、剛健な心は以前と少しも變らずにゐた。

彼女はシベリア礦山での懲役五箇年に宣告された

彼女が四人馬車に乘ると、その左右に頑丈な憲兵が窮屈さうに腰をかけた。このガカ馬車で二ケ月間搖られて、彼女は五千哩をシベリアへ行くのである。彼女と同時にシベリアに流刑される同志は他の十臺の四人馬車に分乘してゐた。みんな四人服を着てゐたが、男子は足と手首とに重い鎖をつけられて頭を半分剃られてゐた。

夜は路傍の牢舍に入れられた。燻ぶつて、無氣味で、壞血病、肺病、チブス等の病菌のある囚房、漆喰がぞんざいに塗つてある丸太の壁は、苛なまれた就寢者に殺された虱で、赤くなつてゐることが度々であつた。肥壺には蓋がないため、空氣は年中臭く眠る腰掛には夜具がなかつた。壁越に聞こえるのは絕間のない桎梏の音、婦人の呻吟、病氣の赤坊の泣聲であつた。壁には、いろ〳〵の記號や、先に行つた友人達の姓名や、死亡と發狂との通知や、警官を出し拔く拔目のない短い助言などが刻まれてあつたこのシベリア街道に沿ふて、あらゆる社會階級の男女小供の引張られていつたのが、一八七五年から一九〇四年までに廿五萬以上に達してゐる。小さな町の官吏のやきもち燒きの妻君の爲に流刑に處せられたところの、氣の優しい娘達は、殺人者や墮落男と並んで歩かせられた。ブ女史は云ふ。

「あなた方は、光景や物語りばかり私におたづねになるんですね。けれど、我々は我々の夢のことを考へてゐたので、外部の生活には、そんなに氣をとめませんでした。死んだ者があるか？ ええ、一人チブスで。役人は患者を全速力で驅り立てたので、ガタピシする車から聞こえてくる患者の無我無中の苦悶の聲に、我々が大に抗議したものですから、患者はイルクーックの監獄に遺されましたが、其所で死にました。子供もゐたか？ ゐました。一人の小柄な妻君は十ケ月の赤坊を有つてゐましたが、我々は出來る丈、彼女を助けました。子供は旅行をしおほせました。別れを告げた友達ですか？ええあります——クラスノヤルスクを通過した時、ある學生のお

母さんが、息子に逢ひに遠方から來ました。役人は息子がお母さんに接吻することを禁じました。母子はほんの一目見たばかりで、憲兵は息子を馬車に突き入れて、どし〳〵驅出しました。我々は通り過ぎながら、お母さんの、血の氣のない、やつれた老いた顔を見ました。彼女は路端に倒れて了ひました。」

　カラの礦山に着くと、彼女は自分の刑期は、八ケ月に過ぎないこと、監獄で過した四十ケ月は宣告文から差引かれることになつてゐたことを知つた。彼女はまた、政治犯人は礦山の烈しい筋肉勞働をするを要しないことも知つた。彼等の刑は、或人々にとつては、却つて一層惡いのであるが、强制的の無爲であつた。十ケ月後彼女はカラを去つた。

　彼女は、北極圏に近く、吹曝しの小屋が少しばかりゐるバアギジンに連れていかれた。彼女はいふ。

「地面が凍つて、息もつけない程風が烈しく吹く冷たい秋の日に、バイカル湖北の草原を、裸足で旅して行く、幾百といふ囚人の、長い行列を目に浮べて御覧なさい。彼等はカラの礦山で刑期をつとめあげて、流刑の生活をする宣告を受けた地に、行かうとしてゐる囚人の一團なのです。

「私も其の囚人の一人でした。他の人々同樣私も裸足でした。私は番兵達に隨かれて、いつも行列の先頭に立つて歩きました。病氣の女の子供達は、彼等をガタ〳〵搖つたり、打ちつけたりしながら、のろのろ引摺つていく、みじめな馬車の中で、泣き叫んでゐました。誰も彼も寒くて震へてゐました。一人として口をきくものはなく、砂漠の沈默を破るものはただ風ばかりでした。

「やがて、地平線の上に一つの黒い點があらはれて段々大きく、段々黒くなつて來ます。三十分後にはそれが人の群だといふことが分ります。一足々々、やつとのことで引摺つていくのが、よろよろして、痩せて、鉛色の顔をして、襤褸にくるまつてゐます。彼等の中には、歌なく言葉なく、砂漠の寒冷な空氣に、弔鈴のごとく反響する鐵鎖のほかに

は、何の物音もありません。この夥しい民衆を護送していく兵卒達は、弱つて行列に加はつて行けないやうな人々を、銃の臺尻で突き進めました。彼等はカラ礦山行の囚人でした。

「我々の行列は止まりました。私は不幸な人々のそばに行きました。ロシアでは、普通の（政治犯でない）囚人は、立派な理由で有罪にされた人々の仲間入をいつでも誇としてゐました。彼等は政治囚を優秀な人として仰いでゐました。殊に、彼等の接する役人が尊敬するに足らない場合には一層さうでしたで、その竊盗犯人や山賊達は、我々を取り巻いて、カラにゐる私の友人に手紙を届けることや、其他何なりとも、彼等に委せられる用ならしませうと、急いで申出てくれました。一言しなければならないのは、彼等が、我々の役に立つことを光榮として、約束を忠實に守つて呉れたことです。

「私は彼等に、どうしてそんなに悲慘な様子をしてゐるのですか。なぜ病人がそんなに多いのです、と尋ねたところ「パンが一斤十二錢もするのに、我々は食物を買ふ金を一日に六錢しか貰はないのです。イルクーツクの監獄を出た時、我々は二百五十人だつたのですが、今はただ二百十人しか殘つてゐません。空腹と寒さとで、道中で四十人死にました。」と答へました。

「我々の群のそばに來てゐた兵卒達は、危篤な病囚を收容する車が足らないと滾してゐました。彼等は此所と次の停車場との二十町足らずの間に、路傍に六人の死體があらうといつてゐました。浮浪囚徒の陰慘な顔は、カラに行き着くまでに、彼等が歩かなければならない何里といふ道中に、同じ死が彼等の多くを待つてゐることを見せてゐました。

「數日後、我々は次の駐車場に着きました。うららかな日で、太陽は我々の心を慰めるかの様に輝やいてゐました。大門が開かれて、我々が入つた中庭は白い服装をして、髪を念入りに結び飾つた、厚化粧の女で一杯でした。數日前から我々の護送兵達は、

サガレンに禁錮の宣告を受けた女達に、もうぢき會ふのだと云つて、笑つてゐましたが、ロシア政府はあの無人な島の人口を增加する爲に、子を生むやうな若い女囚をサガレンに移送してゐたのです。けれども、この駐車場からあの停車場と、サガレンに着くには何ケ月もかかりますし、ロシアの囚人は政治上の權利ばかりでなく、人間の權利も全くないものとされてゐましたから、サガレン行の女囚を、賣淫婦に變形することを思ひ付いて、將校であれ、役人であれ、兵卒であれ、其等の友人知人の誰彼なしに勝手に接していいことにしたのです。私はこの事を少しも知らなかつたので、旅で、女囚がお祭りの時の樣に着飾つてゐるのを見て大變驚きました。けれども夜になつて、泣き叫ぶ聲や、醉漢の怒鳴り聲がきこえた時——獄窓へかけ寄つて、とても口にする事の出來ない怖ろしい光景を見た時——私は氣が狂ふかと思ひました。一旦こんな光景を見た後は同胞の慘狀を忘れやうつたつて、忘れ得るものではありません。ただ民衆を救ふ爲に、一命をささげやうと誓ふばかりです。翌朝の曉方、私は、不眠と精神的苦悶とで疲勞しきつて、新鮮な空氣を吸ひに出かけた時、苦しみで、蒼白めやつれた顏をした、襤褸を纏つた氣の毒な婦人の一團が、私の前の大門を出て行くのを見かけました。彼等は、又新らしい凌辱に屈せしめられる爲に、次の駐車場へ連れて行かれる不幸な女囚であつたのです。」

　カザリンは、寒暖計が、零度以下四十五度といふ二月、パークジンに着いた。彼女は數人のよるべない子供等を見て、學校を開きたいと申出た。警官はペトログラードから送られた警察令を彼女に見せた令は追放敎師が敎へること、追放醫師が治療をすること、すべて敎育ある追放者が、シベリアで各自の專問の業をすることを、禁止してゐた。政府は、もしも彼等に、民衆の世話をする事を許したならば、彼等が革命思想を擴めるであらうと怖れてゐたからである。シベリアでは、以前政治家であつた人達が

五錢の日給で、普通の勞働者として、コサック兵に無理無體に雇傭されることが屢であつた。

　バークジンには、三人の青年學生がゐた。彼等は「行政流刑囚」であつた—即ち嫌疑により「行政命令」による裁判なしに、流刑されたのである。カザリンと彼等とは脱走を企てた。彼女は云ふ。

「我々は太平洋までの二千哩を、我々を案内してくれる人をと二年も探しました。何年か前に旅をしたといふ腰の曲つた老農夫が見つかりました。此男と一緒に、或晩、我々は四頭の駄馬に乘つて出かけましたが、老人の役に立たない事がぢき分りました。我々は、地圖も羅針盤も有つてはゐましたが、森林の岩石と、險しい峽谷との多いタイガでは、殆用をなさず、我々は登つたり降りたりしてゐました。私は私の憫れむべき鈍い馬が、鼻息あらく峽谷を轉び下るのを、屢見守りながら、一本々々木を通り拔ける度に、今度の木こそ、馬を支へてくれさうなものと思ひました。それから何時間も、手を盡し力を盡しぬいて、我々は馬をなだめて引張りあげました。約六百哩も歩いたり登つたりして行つたのですが、直線にすれば、二百哩位のものであつたのです。

「この間中、警察は空しく搜索してゐました。知事がペトログラードへ電報をうつたところ、どんな犧牲を拂つても、我々を搜し出せといふ命令が來たのです。その時のやり方は其制度の特色を發揮してゐました。收穫時なのに、近所の五十人の百姓を捕縛して、我々を連れて歸るまではといつて、田地からも家族からも、追放して了つたのです。幾週も搜索した揚句、百姓達は林檎山で我々を見付けました。彼等の先達は「あなた方が思ひ止つて下さらないと私達はいつまでもあとをつけていかなくてはなりません。とても脱走は駄目です」と、谷向ふから怒叫りました。戻る道すがら、我々一人づつに、十人宛の武裝した男がついてゐました。三人の學生達は、北極の荒野の中でも一番惡い、ヤクーックに送られて了ひました。脱走計畫の刑として、私は、カラ礦

山に於て、四年の烈しい勞働に服することと、四十の笞刑との宣告を受けました。私がその苦痛に堪えて生きていかれるかどうかを見るために、醫者が囚房に來ました。私はすぐに、これは、婦人政治犯人を鞭つなどと、前例のない事をするのが怖さに、此婦人の健康は笞刑に堪えられない、とごまかして、將來、他の人達に笞刑を課し得るやうに、宣告の先例を作る考だな、と見てとりました。そこで私は、「自分は堪えられる、即座に私を笞刑に處さない限り、法廷ではそんな宣告文を記錄する權利がない、と主張しました。宣告は執行されませんでした。」

カラに戻つたカザリンは、約二十人の婦人政治犯人を見出して、嬉しくてたまらなかつた。彼女が初めて投獄された時、政治犯婦人は、實に彼女が唯一人であつたのだつた。獄中の艱難にも拘らず、カラ礦山の生活は、彼女の生涯で、一番幸福な時代の一つであつた。みな一様に、ロシアの自由の爲に身を捧げてゐたこれほど多くの、人格の高い婦人達と一緒にゐる事は、非常によろこばしい事であつた。

政治犯婦人は、四個の低い獄房に共棲した。彼女は云ふ。

「我々の着類は、地の荒い襦袢と、踵まで屆く裳とで、股引もなければ、靴下もなく 靴は粗末で大きかつた。上衣は鼠色で、背中には囚人の印の黃色い極印が押してあつた。」

數週後、男子政治犯人が八人脫獄した。彼等は、叢林を拔け、山を越え、沼を渡つて、ウラジオストックまで、あがき〳〵千哩も逃げのびて、あこがれてゐたアメリカ船のすがたまで見ながら、船渠の上で、追手に捕まつて了ひ、又もや遙々みんなカラに連れ戾された。

この爲に、政治犯の男女は一樣に罰せられた。コサック兵達は、カザリン等の獄房に入つて來て、虱が一杯たかつてゐる着物を、一同に着せ、虐待を極めたので、一人の婦人は自殺を企てたほどであつた獄房は古くて汚なく、頹廢してゐて、壁の隙間からは、毎晩雪や氷が房内を侵し、屋根は漏り、氷柱は太く長かつた。

米國青年會最初の會長ミス・ダッチに就て

ミス・ヂエーンスコツト

米國女子青年會では五月廿一日同會最初の會長ミスダッチの誕生日を特に奉仕の日として紀念する事となりました。此際日本の青年會々員諸姉にも此日を記憶して戴き、且有意義に過して戴き度希望を以て此一文を草します（編者曰、之は五月號に掲載すべかりしものなりしが行違ひの爲掲載し能はざりしなり。）

ミスダッチは極く靜かに御働きになる所謂目立たない活動家で、米國の青年會の人達でさへ、此方の働の偉大さを眞實には知り盡し得なかつた程です。此方が何よりも嫌はれた事は自價廣告めいたけばけばしい働方と、他人を推しのけても自分を先に出そうとする行爲とでした。ミスダッチが初めて青年會に關係されましたのは、まだ極くお若い時で、青年會の組織して居るクラブに加入されたのが、そもそもの初まりです。此頃から青年女子の働に就て少からぬ興味を感ぜられたのが原因で、終にはコロンビア大學にTeachers' Collegeを創設する爲非常な努力を致さるゝやうになりました。此は青年の指導者として特に志を立てた人々を教養する大學であります。幸にして此の企が確固たる土臺の上に築かれるやうになりましたので、ミスダッチは其の後女子青年會の會長として其生涯の終り迄盡瘁せられたのです。殊に青年會の行政、事業企圖といふやうな方面に力をそゝがれましたが、同時に個々の會員にも親しく交つて、彼等との友情を保ち續けられ、最初屬されたクラブの會員達には終り迄變らぬ友情を保たれました。此所にも彼女の美しい性格の一面が光つて居ります。

ミスダッチが最初Teachers' Collegeの創設に着眼せられました時、彼女自身の財産といふもの（後に彼女に與へられた）を有つて居りませんでした。それ故高遠な理想を抱きながらも、そを實現する物資に乏しい者が經驗するやうな失望落膽は又彼女の屢々經驗する所でありました。寄附金募集の爲、彼女は一月に六十回訪問されたと云はれて居ります。しかも結果は六十回とも失敗でした。然し六十一回目の訪問は彼女に大きな報ひをもたらさずには居りませんでした。ミスダッチの此時の感は、自己の努力が最早や無効であると感じた時に、尚進むだけの勇氣と信仰とがなかつたならば此大きな祝福は與へられなかつたであらうといふのでありました。斯樣な信仰こそ聖書に所謂「山をうつす」底の信仰であつて、斯る信仰の所有者が其幻を實現し得た事は當然の事と申て差つかへないでありませう。實に彼女の信仰と勇氣とは、唯に米國の婦人を益したに止りません。

女子青年會の働の中にも時々「不可能」といふ言葉を思はず知らず發せしめられるやうな事柄が起ります。或時も一人の婦人が「それは美しい夢でせう」とミスダッチを冷かした事柄が出來しました。ミスダッチは其時何も返事をされませんでしたが、數日後其婦人と一緒にコロンビア大學の構内Teachers' College の前を通られました時、其建物を指しながら「あの建物も一度は私の夢でした」と申されたそうです。

女子青年會會長の椅子にミスダッチがつかれた時同會は長い間分立して居た二つの會がやうやく合同された時でありましたので、多くの難問題が續出して居りました。若しミスダッチ程の信仰と明敏な頭腦と眞の基督者としての德を備へた婦人が、我々の指導者でなかつたならば、恐らく此合同は以前の分裂に増る不幸な結果をもたらしたかもしれません。然し彼女の指導の下に最初から美はしい一致が保たれ、今日に至つたのであります。實に彼女は自己

の思索も、興味も、財産も、彼女自身さへをも青年會の爲に投げ出されたのです。眞にミスダッチこそ奉仕といふ事を文字通りに實行せられ、其中に自己の全部をそゝぎ出された方でありました。殊に時間といふ事に對しては鋭敏な責任觀を有つて居られ、會長として盡されし間一回たりとも委員會に遲刻された事はありませんでした。時と雖も金錢と同樣人の浪費するがまゝに自由に任し置かれたものではなく、之は最も尊く用ふる爲に、私共にあづけられたものであるといふのが、彼女の時に對する考へでありました。とはいへ決して、いつもせか〳〵して、靜かに落着いて話す餘裕を人に與へぬやうな、いらだゝしさは、其言葉にも態度にも決して表れては居りませんでした。

毎年クリスマス頃になるとミスダッチは青年會の働人達に挨拶のカードを送られるのが常でしたが、亡くなられる年も其用意がちゃんと出來て居て、御永眠後私共は彼女から御祝ひの言葉を戴いたやうなわけであります。此所にも用意周到な彼女の性格の一面が表れて居るではありませんか。

さて斯樣に徹頭徹尾人の爲に生きられたミスダッチの生涯の基調は「奉仕」といふ事でありました。自己の所有も存在も一切を聖別して神に捧られた事が、彼女をして斯くも徹底的な奉仕の生涯を送らしめた動機でありませう。彼女の誕生日の五月廿一日を紀念する事はそれを奉仕の日として過してこそ、初めて眞に意義あるものとなるのであります。更に進で彼女を記憶する事により、萬人が彼女のやうな理想と其を實現する精神的物質的の力を與へられて居らないにしても、一人一人が日常の生活の中に、「人を使ふ爲にあらず、人に使はれん爲」との聖言を實行する者となる事は、一層深い意味に於る彼女の記念となることは申す迄もありません。諸姉よ、どうか一人の婦人の無私な生活が世にもたらした大なる祝福を御憶へ下さい。

三週間の旅より歸りて

河井道子

四月廿九日東京を出で翌日京都に於る女學生の大會に臨む。京都は保守的の所にして多くの婦人を集むる事不可能なりとの通評あれど、此日と翌日の婦人大會に於て、其批評はも早や時節遲れの感ありき兩會とも四百人以上の集會者ありて、女子青年會委員及び幹事、友人等の努力多かりしと、京都婦女子の進歩的とを示めせり。五月一日各所に勞働者の大會開かれたりしも、吾等は靜かなる聖日の朝を同志社教會堂にて過したり。此日英學塾卒業生二三名來訪せられし中に角谷純子姉は母上と共に來られ、初めて教鞭を取られし經驗の物語にて、樂しき會合なりき。二日早朝伊勢に向ひ老母を見舞ふ。田舍の常とは云へ村人等の親切さ、兒童の無邪氣なる、都には得難き慰籍にて、夕刻廿名程の子供等庭先に來り、「道路の歌」を一齊に歌ひ旅の疲れを慰めくるゝ等、到底都人の思ひもつかざる處ならん。滯在二日を主に庭の虫とり、村人の訪問などに送り、長閑けき心地に充されて大阪に向ひ、五日夜行にて梅田を發し六日午後二時早や九州福岡に着、雨中副島すゞ先生福岡女學校より出迎はれ、早速學校に開會中の「母子會」に臨み一塲の講話をなす。福岡女學校はメッヂスト派のものにして九州に於る屈指の女學校なり、特に九州には同校と長崎活水女學校の外ミッションの女學校なきをもて、同校が教育界に重きをなす事言を俟たず。近年新築校舎竣工し、猶資金を得次第家政館、音樂館、禮拜堂等の建築に着手せらるゝ由なり。其夜同校寄宿生に歐米の土産話をなし邊り靜かなる教員館に旅の疲れを休め、翌朝は同校青年會委員と正午迄協議會を開き、寄宿舍にて中食の御馳走にあづかり、直に矯風會及び婦人會に出席す。此以前同地の矯風會は救世軍と協力して大音樂

會を開き、好成績を擧げたるを以て、此日は感謝を兼たる會合なりし。福岡には救世軍の組織せるBoy Scout あり、之により少年の氣風大いに改められたりといふ。同夜鐘淵紡績會社に導かれ、女工達に講話をなし、監督者に會ひ多く學ぶ所ありたり。抑も鐘淵紡績會社は日本全國廿四所に設けありて、女工約四萬人以上を有すといふ。斯る大會社の社長武藤春治氏は實業家中稀に見る博愛の士にして宗教、教育等には多大の同情をよせ、殊に使用人は男女を問はず大切に待遇さるゝ點に於て何所に行きても敬意を表する人多きは喜ぶべき事なり。現今の如く經濟界不振の秋と雖も同會社にては女工等の必要品は毫も削除せず又節約なさざるやうにとの訓辭さへ、取締一般に通告ありしとの一事を見ても、如何に女工等に對して心を用ひられ居るかを伺ひ得、斯る性格の實業家が益々增加せられん事を望みてやまず。

八日は日曜にて初めて安息の氣分を感ず。青々とせる麥畑の小丘に立てる教師館の窓より鶯の飛び交ふ活畫も、雨にやつれし躑躅の姿も何となく氣を靜むる心地し、斯る土地に勉學さるゝ姉妹方の幸福を思ふ。夜は最後の講演をなし、翌朝下の關に向ふ。午後日基教會の婦人會よりの招待をうけたり。此邊一般に近頃基督教に反對する者其の數を增したりときく。日曜學校の如き以前は喜びて來りし子供らも近頃は其教師に會ひても惡口を云ふ如き有樣なりとさはいへ、斯る困難の土地にありても梅光女學院はいよ／＼其光をあらはし、生徒數も殖え受洗者も增し、既に教室は狹きを感じ、寄宿舍は近き將來に新設さるゝ好運に向ひつゝありて、困難の中にも喜び溢れ、活氣盛なるものあれば、いよいよ信徒一般の協力と勇氣とに信頼して、同地に於る基督教の勢力を擴張せられん事を欲するものなり。十日は梅光女學院にて講演後、舊知人に邂逅す。長府よりも招待ありたれど 時間なき爲不參し、以前東京青年會に音樂を教へられし秋元俊子姉より門司にも立寄るやうにとの御招きありしも之をも辭し、十一日午後

廣島に到り廣島英和女學校に投ず。同校は幼稚園より女學校、傳道學校、媬姆傳習所迄ありしが、昨年高等部をば大阪に移されしも又英語と音樂の專習志願者多きを以て新しき部を設け、其擴張に努力中なり。同校創立者ミスゲーンスは日本に渡來せしより卅五年、而も佛敎の大勢力地なる此市に最初より止り、今日學校及び敎會の隆盛をなせし其賢かつ忠なる働には敬服の他なし。惟ふに我が國にありて廿年若くは卅年傳道、敎育等の事業に盡さるゝ外國婦人等は大概妙齡の頃外國傳道に踏み出したる女傑なり。我等之を思ふ時、今日の敎育ある若き婦女子にして總ての利慾心を捨て、外國の敎化に身を獻ずる如き決心あるもの幾人ありや。願はくば我青年女子の中より志を堅うし、神に其身を捧げて自國、他國の區別なく道の爲に蹶起するものの多く起らんことを。

十二日に廣島高等師範學校(男子)にて有志者間に感話を許され、萬國基督敎學生同盟の過去及び現在を語り中歐救濟事業に就て述べ、又婦人の立場より男子への所望を告げ、終りに敎育家たるべき人々の新しき責任と我等の希望を披瀝して反省を促したり青年男子間に我等が飾らざる誠實なる意見を述ぶる機會を與へらるゝ時機の來りしは喜ぶべき現象なり當日の訪問者中以前東洋英和女學校にありし田邊芳子(今の赤木夫人)は在校中女子青年會に盡されし經驗を斷へず回想して喜びを感ぜられし由にて、今後進んで青年會の爲盡力さるゝ決心に勇氣づけらる。

十四日は大阪青年會の第二回年會にして、午後二時半より淺井會長司會の下に開會す。來會者の大多數は非會員にして而も年少者なり。之を以ても女子青年會の働が其目的たる青年間に擴大されつゝある事を知るに足るべし。幹事土屋しげ子姉辭任後、後任者なき同會なれど、河野、佐藤兩姉はミスレーガンミスアレンと美はしき協力をされ、又早朝より夜分迄皆身を惜まず働かるゝ結果、有職婦人等の會館に出入するもの日々數を增のみ。同地は一日も早く

寄宿舍建設に着手せずばならざる次第ながら、適當なる地所を得るの難き、たゞ神の導を祈るの外なし、十四日夜數名にて京都に赴きミスペーヂの誕生日を祝ふ。古き都を知らざる者共には、京都の風雅なるに驚く事屢々にして、此夜會食せし京極食堂は、外部より見る時は、何の風情もなく賑かなる市街の一食堂の感あれど、其内に入れば直に池あり、飛石あり、草木繁茂し、岩躑躅、あやめ等咲き亂れかすかに人工的瀑布の流るゝなど、恰も仙境の心地す。東京より近頃赴任されし鈴本欽子姉も同席され京都は人といひ、土地といひ、仕事といひ、豫想以外に美はしとの言葉は尤なりと思ふ。

翌日曜日正十二時に神戸に着し、大呑幹事に迎へられ、青年會に入る、宇佐夫人其他數名の會員諸姉會合され、神戸及び市外に於る會員間にクラブを組織して、お互の經驗及び智識を交換し、向上の道を計らんとの協議ありき。宇佐氏のいはるゝには「男子は其事業に於て智識を伸べ若き者は學校及び外に於て日々進歩する中に、主婦のみ日常の家事に追はれて何の進歩もなく、知らざる中に退歩するは悲しむべき狀態なり。されど度々講演會等に臨みて見聞を廣むるには時間なく、訪問等にも時間の心配ありて利する折少し。故に十名位の近隣の人々一週に一度或は月一回、午後二時より四時迄位と時間を定め、不斷着のまゝにて、足袋の繕い靴下の編物等を携へ相會して共に衣食住に就ての問題、或は閲讀せし書籍の紹介、若くは信仰談等を取交すは自他の利益となり、時には不正なる問題に對しては主婦一般の輿論を作りたらんには終には廣く一般の輿論たらしむべきを信ず。故に斯る集會をクラブと名づけ青年會員及び其友人間にて最寄り會を組織したし」と述べらる。實行を切望す。

午後は一般の婦人方の爲日曜の集會を開き會後松蔭女學校の小野寺靜子姉、日語學校教師たりし田口夫人、神戸女子神學校の織田やす子女史、津山高等女學校の教諭たりし渡邊夫人など舊知の人々に相會

して益々青年會の爲努力さるゝ御樣子を見感謝の外なし。其夜又大阪に歸り、翌日はプール女學校に至り中歐學生の救濟事業につき講話す。歸途大阪青年會の會員なる奧山ふで子姉の許に立寄り、久々にて昔を語り、又其子女の敎育等につき善き敎訓を得て歸宅す。同姉の一令息は不幸にして明を失ひしも家族一同の此男兒の敎育に熱心なる事驚歎にたへず。琴と三味線は早くより敎へ込まれしも、如何にかしてピアノを敎へんと非常な苦心の結果、今日にては英國より盲人の爲特製したる點譜を取寄せられ、それにて練習をなし、月數回は一流の先生につきて實地にピアノの敎授を受けられ尙女子青年會の米國幹事より英語を學び、點字にて多くの智識を得させんと、御兩親の苦心感ずるに餘あり、其男兒はピアノに於ても英語に於ても進歩早しと受持の敎師達は語られたり。此家庭は實に和氣靄々として、出入するものに暖き思ひを抱かしめ、一人の不自由なる人のある家とは、夢思ひ得ざるは之全く基督敎を土臺とせる家庭にして、一人の苦痛と不自由とを家族全體が補はんと互に努むるがゆゑにかくは益々一致和合の氣分湧き出づる故なるべし。

其夜大阪青年會々館にて有職婦人に會ひ、基督敎の友情に就きて語り、再會を約して別れ、十七日には京都に再び出でゝ、同志社女學校の靑年會に臨み役員達と協議の後、會員一同に本年の修養會の事などを語りて別れを告げたり。京都靑年會は同志社の附近にあるを以て、相互に助け合ひて進み行かば、學校も青年會も必ず美はしき發展を遂ぐるに至るは當然なり。

何所に行きても靑年會の使命多きを思ひ、指導者の數の增加せん事を願ふ事切にして、愈々敎會、社會、學校の深き連絡を保ち、より以上の奉仕をなさざるべからざる事を敎へられたり。

自分達は自分の力の限りをつくして、あとは何かにお任せの出來る仕事を一生してゆきたいものだ。――幸福者より――

エスペラント

エスペラントは卅五年前（一八八七年）初めて世に公表された新らしい言語である。一般に國際語の名稱によつて知られてゐるが、字義は「希望者」である。

この創始者は、一八五九年に生れ、五年前に死したルドヰコ・ザメンホフである。一日も早く彼の詳傳が紹介されん事を、私は望んでゐるが、人類に對する彼の熱烈な愛と、その愛の實現の爲に彼が拂つた犧牲とは、さながらに、キリストの生涯を我等に偲ばしむるものがある。彼がエスペラントを創始した動機も目的も、すべて人類に對する愛を以て一貫してゐる。

エスペラント　初學者の一人

露領波蘭に生れた彼は（彼の兩親はヘブライ人卽ちイスラエル人であつた）、強國が屬領に對する暴力と壓制とを、審に味つた。異人種の雜居する土地に育つた彼は、異種族間の憎惡、反目、敵視を、毎日のやうに周圍に見る斗りか、流血の慘狀をさへ一度ならず目擊した。少年の感じ易い心が、どうして此等の光景に無關心でゐることが出來やうぞ！　殊に信仰の篤い母から、あらゆる人類は兄弟で、神の前には皆平等であることを、稚な心に深くも敎へられてゐた彼、不正に對する激しい憎惡心と、自由に對する深い愛着とを、生れながら有つてゐた彼は、強者の暴行、弱者の屈辱を見て、さういふ場合人が陷り易い樣な呪咀と絕望とに、心を占められる事がないのみか、反對に、身を賭しても、全人類を兄弟の

愛に結合する爲に盡さうと決定した。

彼は、異人種間の反目敵視の原因は、相互の不理解にあるのだと斷定した。「もし人々が互に相解し合ひさへすれば！」それには共通の言語による外はない、と少年ザメンホフは信じた。これが彼がエスペラントを生むに至つた動機である。この樣に、エスペラントは、外交や通商の利便を目的として出來たものではない。猶更、趣味や嗜好から生れたものではない。人種國境の區別なく、人はすべて兄弟であり、全人類は一家族であることを、固く信じてゐた人が、血肉流血の慘に、深くも傷つき苦しんだ心から、自由と愛と協力との新社會を建設しやうといふ理想を以て、始められたものである。暗憺たる環境の中に、遼遠なる前途を控へつゝ、彼は最後の勝利を確信してゐた。

「諸國間の憎惡よ、
倒れよ、倒れよ、時は來れり！
ありとある人々の群は、
結びて一つの家族となれ」

これは、ザメンホフが十九歳の時の詩である。（譯語調とも原作の善を害なふ罪を恥ぢる）。

彼のゆくべき道は、決して坦々たる大道ではなかつた。父が敎師で、子供の多かつたザメンホフ家は精神的には富んでゐたが、物質的には貧しい生活をしてゐた。どの時代にも先覺者に附物である孤獨と犧牲とは、人類の大恩人となるべき少年ザメンホフをも見逃すことはなかつた。淸廉嚴正なる父も、愛に滿ちた慈母も、その長子の偉大さを理解することが出來なかつた。空想とも突飛とも思はれるやうな企に餘念もない子に、父は危惧の念を以て對した。母は沈默の同情を以てした。

常に首席を占めてゐたザメンホフの、頭腦の明敏さと深い友愛の情とに深い印象を受け、彼の理想に共鳴し、彼を深く愛してゐた友人達は、學校卒業後彼が創つた言語を、宣傳し且つ日常用ひ始めたが、大人達の嘲笑にあつて、一たまりもなく口を緘ぢて

了ひ、ザメンホフは全く孤立狀態にのこされた。

彼は醫學を修めに、他郷に出たが、辛く饑渇を醫するに足る丈の、極めて質素な生活をしてゐた。彼の父は、彼が醫學を修得するまではと云つて、彼が多年苦心の新言語の原稿を、とりあげておいたのであつたが、彼は大學で醫學を修めながらも、初の一念やみがたく、或夏家に歸つた時、深く愛慕してゐた母に、自分の最初の目的の變らないことゝ、同胞主義とを說き、餘暇に研究したいから、いつかの原稿は？ と尋ねた。母の蒼ざめた顏には淚が宿つてゐた。もう廿二歲にもなる息子は、あの原稿が父に燒かれて了つたことを、どう聞くであらう？ 父としての愛から、かうして息子を「救ふ」のだと信じて思ひ切つてした事には違ひないけれど、母は從來も憶出してはよく泣いた。今も亦淚は新らしく湧いてたゞ無言。ザメンホフは悉くを直感した。彼の幾年の貪い勞苦と努力との結晶であつた原稿は燒かれたけれ共、その源は涸れなかつた。絕望といふことを知らない程に、人類に對する彼の愛と、人生に對する彼の信とは、強く且つ深かつたのである。彼は孜々として又働き始めた。

彼は愛人の父に、自分の主義理想に對する理解者保護者を見出した。彼と、主義理想のみならず、犧牲窮乏をも、生涯共にすべく、愛人は彼の妻となつた。彼に最も近かつた三人の女性――母と妻と娘――との關係は、終始祝福に滿ちたものであつた。

彼は開業醫として、故郷の町に、多くの貧者、勞働者を治療しつゝ、僅に晩の時間を以て、エスペラントの研究、發表、通信を續けてゐた。

權力、金力の後楯のなかつた彼の新言語は、急速に華々しくは擴がらなかつた。その代り、眞に理解し共鳴した人達の間に、根深く擴がつていつた。偶には動機が純粹でなく、策略的な人々もなくはなかつたけれど、ザメンホフの愛と信とは、其等の人々にも、神の如き寛容を以て對してゐた。

强國なるが故に、學術進步せるが故に、商業發達

せるが故に、文化すぐれたるが故に、他國人に學習せられる國語は數々あるけれども、全人類の結合と同胞愛との爲に、つくられ、用ひられてゐる言語は唯エスペラントあるのみである。

「エスペラントは、人々の頭腦を相接近せしむるに止まらず、彼等の心と心とを相接近せしむるものとして萬人に好まれる」エスペラントは「言語は手段なり、目的にあらず」「人類を一家族と見よ」「人といふ名を國民たる名の上におけ」と云つたザメンホフの心と生命とを有つてゐる。十五年前ケンブリッヂ大學に於ける萬國エスペラント大會には、千五百の出席者があつた。「ケンブリッヂの人々は、彼等に利益を齎らすところの商人としてでなく、彼等が理解し好むところの人類結合の思想の使徒として、今日我等を迎へた」とザメンホフはよろこんだ。「マイヤー教授は「我等は新らしきペンサコストを目撃す」と叫んだ。「高塔に於て、ゴシック風の樓門の下青き芝生の中、蜒蜿たる河の船の上、彫刻美しき池の中、いづこにも」エスペラントが聞えざるはなかつた。出席者一同が起立して、ザメンホフの作詩「希望」を、心も聲も一つに歌つた時、ザメンホフは感動に身を震はせた。

エスペラントは、今、日進月歩の勢を以て擴がりつゝある。現に、ロシアでは、全國の各小學校に正科として課してをり、英國も既に多くの學校に正科として課してゐるが、採用する學校はずん／＼増加しつゝある。佛國では各商業學校に隨意科として課されてゐる。

エスペラントは、それが科學的且つ音樂的であるのと、發音、文法が極めて正確なのと、學習が非常に容易なのとを以て、あまねく讃稱され、歡迎されてゐる。

日本に於ては、日本エスペラント學會（牛込新小川町三ノ十四）及び極東エスペラント書院（青山郵便局私書函第一號）のほか、大きな都市には學會の支部がある東京及二三の支部では時々講習會を開いてゐる。（學

生の團體では一高及び帝大にエスペラントの會がある。）エスペラントは、獨習や通信教授でも容易に修得されるものであるから、僻地の人々も學習し得る便がある。敎科書、獨習書、辭書、その他の指導を右の二ヶ所で得られる。

左はトルストイの書簡の一節である。

「七年前に、エスペラントの文法書、辭書、エスペラントで書いた論説を貰ひましたが、二時間足らず學習したあとで、書くことは出來ずとも、少くとも讀むことは、らくに出來ました………。私は人間の間の憎惡は、相互の理解を妨げるものがある爲に過ぎないことを、何度も見ました。疑もなく、エスペラントの學習と傳播とは、人生の最大且唯一の目的である神の國の建設をすゝめるところの、キリスト敎的事業であります。（一八九四年四月二十七日　ヤスャナポリヤナに。」

第十六回夏期修養會

標語　汝等先づ神の國と其義とを求めよ。

皆樣お待ちかねの修養會は委員協議の結果七月廿八日夕から八月五日朝迄、靜岡縣御殿場東山莊に於て開催する事となりました。夏期修養の土地として此上もない好い場所を得られた事は、今年の修養會にとつて先づ第一の幸福と申さねばなりません。次に講師として今年私共に與へられた先生方は信者の組には基督敎會に篤學の士として知られて居る富永德麿氏、「歡喜に溢れて」の著者大阪天滿敎會牧師武本喜代藏氏、舊約にはオベソン神學校に學ばれ神戸女子神學校に敎鞭をとらるゝ織田やす子女史等があります。講演者としては、文學士二階堂眞壽氏、中澁谷敎會牧師森明氏、市谷敎會牧師金井爲一郎氏、木村淸松氏（交渉中）、ボーリス夫人、吉野作造氏等がございます。少女及求道者の聖書の組は青年會幹事の者が受持つ事になつて居ります。場所の關係上人數に制限がありますから申込は可成お早い方がよいと思ひます。

故小堀芳子様の追悼會に列して

T・S

五月廿五日午後、私は私を待ち兼る人に遇ひに行く如な懐しい而して大切な氣持で會場へソーッと入りました。演壇に近く清白なマガレットと芍藥とが挿してありました。九分通り出席されて居る方々は皆祈りの氣分で充たされた樣に瞑目して居られます。何といふ靜かな集りでせう。不言不語お互の胸には故人の在りし日を多忙しく物語り合ふてるのでせうに。やがて定刻に故人の愛歌「我が喜、我が望」は靜かに靜かに彈き初められました。元氣な芳子樣が會のある時に期して彈いて下すつては一節目に「よくつて」と私を御覧になられましたが、フト思はずも既に故人と知り乍ら尙見ずに濟まされぬ氣で、其の影を求めました。そしては今更の如うに現世に齢若かりし人の殘された愛すべき生命の力、それが此所に集ひし否、芳子樣に接した多くの若い友に、又はあらゆる知人に靜かに正しく働きかけて居る事を深く思はずには居れませんでした。川尻先生の追悼のお話は芳子樣の眞實を寫し出して下さいました。「快活な性質、底に物を持たぬ淡白さは恰度清く澄んだ流れです。透して見れば川床の小石までが數へられる。しかも淺いのではない中に入る時に非常な深さを發見す」ほんとに小堀樣は春淺い日麥畑の青さから斜かけに中空へ飛び揚る雲雀を偲ばせる人でした。それ程賑やかな、然ども一面には實に嚴粛な、物事をいゝ加減に出來ない眞剣さを持ち友の爲に考へる時、自己を省みる時は思慮深く涙の多い方でした。虹クラブの會長となられてからは其性質がよく會の働の上に表はれて來ました。癩病院慰安訪問、貧民兒童招待、某クラブ資金の爲、某所費用補足の爲と或時は夜遲く迄、菓子製造に袋張りに、又は其爲のピアノ練習にとマリアになつたりマルタになつたりそして使徒を助けたドルカスにも成つて働いて下さいました。此頃からでした

私共は何時か小堀様は若い方の爲に直接に相働きになる時が近き將來にある樣ならば、どんなに力强く感ずる事だらうと考へはじめましたのは。而も假の病と思つて居りました其病が重らうなどゝは。病篤しときいて走せつけた時、苦さを忍で微笑ながら手を伸べて握手を求められました。淸き思ひに充ちた澄んだ目、衰へた肉體の中に不滅の力を宿す人の强さを感ぜしむる手先の力、これがやがて召されて行く人なのかしらと思ふと女々しくも淚が目と頰を傳ふを禁じ得ませんでした。「祈つて！祈つて！」アヽ可憐なるパレアナ。芳子樣から此言葉を聞いた時、芳子樣の爲に祈るのか、斯も弱き自己の爲に祈れと云はれるのか迷ひました。「主エス共、攝り給へば互に攝るべき十字架忍びて是を持たしめ給へ。勇みて是に耐えしめ給へ」と終つた時に芳子樣はハッキリとアーメンと云はれました。あゝ苦しいのだ、芳子樣は苦しいのだ。しかも何と云ふ雄々しい耐え方をして居らるゝのだらう、一言の痛苦を訴える事もなく、かくあるとは。强い者に賴つた小堀樣の信仰の力、それに依つて立つた芳子樣は神を尙認識らぬ御兩親に、病院の重立ちし人々の間に、看護せし婦人方に不思議な力と思出とを殘して逝かれました。



肉體に再び相見ずと思へば、諦めても諦めきれぬ悲しさが溢れますが、「すみか隔つとも、主にある民は、共にこそあはめ、惠のみざにて」時間と空間とに塞がれた御身を無限の光の未來に移されたのです。靜かに喜んでと考へ至る時に、今迄よりも、より近くそして潔められた友の情けに浴し得る喜を味ひ得ます。「我儕の國は天にあり。」

はかり知られぬ天父の惠を讃め賞える時、夕日の光が斜めに差して白い花を黄金に咲かして居りました。

中歐學生救濟義金募集に就て

兼て御願して置きました中歐（墺、獨、波蘭土等）學生救濟義金募集の實行に着手いたしました。過日日本各地の女學校に向けて趣意書と説明書とを御送りしたのを手始めに、今後尚出來るだけの力を盡し又皆樣の御助勢を仰ぎ、如何にもして此企に成功を齎せたく切望するものであります。之は萬國學生の協同事業で、米國はもとよりの事、英國など大戰で受けた同國の物質上經濟上の傷が未全く癒えきらぬ今日、進んで中歐學生の苦境を分擔して居ります。皆樣もどうぞ之に參加する特權を喜ばれ、進んで此爲に御努力あらん事を御願いたします。御參考の爲左にオーストリア學生々活の一般を略記致しませう。

一、**食物**　大學學生の爲めには大學食堂の設けがある。學生は其處で食事を取るが、一般の學生は學生食堂で食事をする。其代價は晝飯四・五〇クローネ夕飯三・二〇クローネである。現在に於ては一日中只一食のみ取るものも可なり多數あるが、大部分は一日二食で濟まして居る。大學の食堂で食事を成す者には比較的良い食物があるが然らざるものゝ大多數は僅かのパン、而も其が馬鈴薯の皮で造つた粗惡なものと砂糖入らずの珈琲一杯で一日を過すのである。

一、**住居**　に就いては多數の學生は下宿屋停車場の待合室湯屋等に泊る。又各學校の講堂等に泊る者もあるので、某商科大學では學生が來て寢るのを防ぐ爲、放課一時間前に其實習室に錠を下すと云ふ所もある。宿舍を得ることが斯く困難である爲に八個の寄宿舍を作つた。其中最も大なるものはヴインナの郊外にあるもので百三十の小室があつて二百六十名の學生を收容して居るが、此處より

大學までの距離は徒歩で一時間を要する。學生等は此處を歩む爲に一時間を費す時は勞働や勉學の時間に差支を生ずるのと、體力が弱つて居るのとで、此處を徒歩する人は少い。さりとて此處より大學までの電車賃四クロネを毎日拂ふ餘裕はないのである。

一、内職　學生は之が爲に何とかして時間外に勤務し、學資を得ねば勉學どころか生活して行く事が出來ない爲に、種々の手仕事又は勞働仕事を探して居るが、身體の健康は到底力を用ふる仕事に堪えない。先最も容易に得らるゝ收入は出教授をする事に由つてゞある。偖出教授は幾何程の收入があるかと調べて見ると、千九百十三年には一時間三クロネとして一日一時間半教へて一月約一一八クロネであつた。然るに千九百二十年になつては一時間五クロネとして一日四時間教へて一月約四八〇クロネを得られる。然し學生が一ヶ月の學資の最少限度は一・〇〇〇クロネである。故に充分なる生活の安定を得んためには日に十時間働かねばならぬが、さうすれば學校の授業を受ける彼等には不可能となる。出教授の外の仕事で彼等が今爲しつゝある事は靴屋、フイルム會社職人、活動寫眞、料理屋カフエーの樂手等である。

一、健康　は如何と云ふに學生間には結核病と貧血病とが威を逞うして居る。一例を擧ぐれば千六百人の學生中疾病に罹り居るもの二百四十名にして内百四十四名は結核患者であるが、生活さへも困難を感じて居る彼等は醫療を受くる事は勿論困難である。從つて其儘にして居る。それで病は益々進むばかりであるとは實に悲慘な事である。

一、内職　以上の情態の及ぼす影響如何と云ふに、其結果は實に恐るべき者がある。即ち知識階級の犯罪者の數が近來增加した事である。即ち千九百十四年に於ける刑事事件六百五十九件なりしも、千九百十九年には一萬三千六百三十一件である。又自殺者の中に學生の自殺者が著しく增加した

る事が看過すべからざる現象である。

一、物價　茲に戰前に比し今日の物價が如何に騰貴したかを參考の爲に列擧しやう。

	一九一四年	一九二〇年
衣服一揃	六〇—七〇クロネ	三・〇〇〇—四・〇〇〇クロネ
靴	九—一二	八〇〇—一・〇〇〇
ワイシャツ	三—五	三〇〇—四〇〇
帽子	一〇	四〇〇
石鹸		一五
シャツ洗濯代		三〇

是で此外の物價を推知することが出來る。

日本では男子青年と女子青年會とが此醵金の直接の責任者として努力致して居ります。少くとも五千圓の義金を日本女子學生の間から募り度き希望で居りますから、本誌讀者諸姉も奮つて御寄附あらん事を御願致します。御送金の節は　中歐學生救濟義金と御明記下さい。すでに寄附金を送られし方々は、本誌締切迄に

女子商業學校生徒有志者　十六圓五十錢
（五月號報告の廿四圓と合計四十圓五十錢）
共立女學校青年會　十五圓
廣島縣甲山實科高等女學校職員生徒一同　二圓五十錢

東京女子青年會報告

一總會、五月七日午後四時開催。暗き雨の日なりしも來會者約百五十名を數へ、實に打ち溶けし會合なりき。杉村陽太郎氏の「國際的共同生活」と題する又ガンドレット夫人の「歐洲を見て」との講演、並にカニングハム御姉妹のヴァイオリン等あり。會後直ちに簡易西洋料理のお皿が各自膝の上に置かれ、諸クラブの歌は賑々しく興を添へ、「光りの父よ」の歌を最後に讚美して樂しく終る。

一ベスパーミーティング、每月曜日の午後の神田の女子青年會は殆ど百人に過る英語の組の方々で足のふみ入れ所もない程の大勢の方々が終りのベルがなつて五分もたたぬ間に、階下の體操場に吸ひ込まれて了ひます。七八十人から成る半圓形の中心にお立ちの先生は、いつも熱心とにこやかな表情で、時には聖書のお話を或は先生方のお感じを、しんみりと廿分餘もお話し下さいます。聽く者の心の奥底には

いつも何物か殘されるのでございます。

家庭部

坂本花代

一料理の組三つ、生徒數四十五人、
二裁縫の組一つ、生徒數六人、

五月十三日午後一時より一戸先生の筍料理實習會を開き、一本の筍で五種のおいしいものを作る事を學ぶ。然も方法は簡單で來會者十九名なりしが、いづれも大滿足にて次回を樂しみて散會す。

五月廿日より六月廿日迄の間、毎週月水金の三日間朝九時より夕四時迄西洋裁縫一ヶ月講習を開催す。之にて兒童の夏服もいろ〲御學びになり得る事と御來會を御勸めす。

家庭親睦會。四月廿三日午後六時より催す。御客樣四十五、幹事九、お手輕な洋風の夕食の後瀧澤樣及びポーランド兒童救濟會副會長ジャコビウイッチ氏のピアノ、ミスフエリスの遊戲に樂しく過す。

五月廿八日午後六時より再び同會開催。目下計畫中。

五月卅一日午後三時より同部文藝部の主催にて講演會を開く、講師豊田教授、演題ジョーヂエリオットとトマスハーデイーの人生觀。有志の音樂あり。

横濱女子青年會報告

一横濱女子青年會は五月廿日及廿一日の夕當市紀念會館に於て開催さるべきヘレンケラー一生の活動寫眞及び廿一日午後山手ゲーテ座に於て開かるべき「孤兒の生涯」の爲にて忙殺されて居ります。一昨年の秋パジエントの當時見た一致共働の美しき尊き經驗を會員間及び職員間に再び味つて居ります。物質的の成功不成功は第二位とし正しき道を踏み、正しき結果を生んことを一位として働いて居ります。此頃は如何なる小路を歩いても「闇より光へ」の青年會にふさはしい活動寫眞のポスターが見出され、之と共に本會の紹介されて居る事を滿足に思つて居ります。

二次いで六月三日四日の兩日本會々館に於て家庭實用品販賣會を本會事業費を得るため催す事に決定

之亦委員會員職員一同準備中であります。
三前回本會委員會に於て本會々館建築地のため某侯補地買收交渉開始の事に決定されました。
四新しき仕事
イ、生糸輸出檢査所より三少女が夜學部へ來て居ります、その人々が中心となつて檢査所より多くの女子が參り出しました。先頃一日電話が同所よりかゝつて來ましたので出掛けました。重役の方々さては働きにある女子皆ニコニコ歡迎してくれました。追つて同所に私共の働きの開始されることとたのしみに致して居ります。
ロ、永い間の望であつた支那少女クラブなるものを組織することに成り、來る廿四日夕本會々館に於て發會式を擧げ廿名の支那學生及び女子と夕食を共にする豫定であります。
ハ、キャンプ、今年よりキャンプを本會々員のため始めます。今年は箱根湖畔に十八より成る一週間キャンプを七月上旬にする豫定で居ります。

神戸女子青年會報告

本會教育部では新に英語商業の組と西洋料理の組を加へました。英語商業の組は米國フイラデルフイア州のドレキセル商業學校出身のミセスミラーが受持つて下され商館に務めて居られる方々の爲に晝の休み時間を利用して商業英語と英語商業文とを教へられます。夜學校は六十名内外のアンビシアスな若い方々が學んで居られます。長い間忠實に御忙しい中を御親切に敎へて下さいました神戸女學院の飯塚先生は御健康の勝れざる爲職を辭され其代りに關西學院中學部の敎師內館先生を得ました。
來る十五日には河井總幹事が來神さるゝ筈になつて居りますので兼て本會が計畫中の會員近隣集會に就ての相談會を開き、引續いて會員一般の集會を開く計畫になつて居ります。
廿一日のグレースダッヂデーは幸神戸女學院のバザーが催されますので同女史略傳を小冊子にしてバザーの會場で賣る事にし收益はポーランドの學生の爲に送る事に決しました。

雜報

□女子英學塾演劇會。同塾卒業生よりなる文藝部主催にて五月廿七廿八兩日演劇會催さる。目的は中華民國の飢饉と同塾基本金の爲なる由。

□横濱女子青年會活動寫眞會。五月廿廿一の兩日同會の主催にてヘレンケラー及び蚊とんぼスミスの活動寫眞會催さる。(純益千圓以上なりし由)

□シユーマンハインク女史來朝。世界的の歌手同女史は東京にて數日の獨唱會を開かれたり。

□法律社會化大講演會。五月廿四日明治會館にて中央法律新報社主催の下に開かる。吉野、仁井田、穗積、諸博士の講演ありたり。

「女子大學講義」出版

「女子大學講義」は新時代の要求に應じて生れた大學敎育普及事業の一機關である。歐洲大戰後、女子の位置は著しく向上進歩し且その自覺は頗る深刻になつたと同時に一層重き責任を家庭と社會と國家とに對して負擔せねばならぬことゝなつた。其の結果、女子の敎育に對する要求は內容に於て程度に於て益々深高を加へ從來の如く中等敎育だけで滿足せずして、更に進んで高等敎育を希望する者が頓かに增加した。之れは啻に女子その人の要求であるのみならず、實に敎育界の輿論であり、又社會が當然の趨勢として認容する所である。然るに今日女子の高等敎育機關は、我が日本女子大學校其他二三を數ふるに過ぎないといふ狀態であつて、多數の女子は燃えるやうな向學心を抱きながら、入るべき學校もなく、就くべき適當な機關もなくして悶々の裡に、徒に歲齡を加へてゐるといふ頗る嘆ずべき事實を示して居る。現在の中等程度の敎育だけでは到底婦人固有の美德と智能とを發揮して婦人の使命責任を果し得る事は出來ない。これ高等敎育翹望の聲の盛になつた理由であらう。時勢は家庭の人たると社會の人たるとに關らず、一樣にあらゆる女子に男子と

異質ではあるが價値に於て對等の人格と智能と事業を要求してゐるのである。女子大學講義は實に斯くの如き時勢に鑑みて生れたものであつて、現下女子教育機關の不備を補ひて本邦女子の向上を扶け時勢に適應した學科を擇んで婦人が現代に爲して有効なる生活をなすに必須なる高等學藝を授け、兼ねて其の人格涵養の資たらしめんことを期する。而して講師の如きは日本女子大學校敎授を始め天下一流の學者敎育家に依囑し、只管平明の文字に依つて學理の蘊奥を究明し説明の懇到を旨として活用の途を啓いてある。本講義は大學敎育普及事業の端緒であると同時に家庭社會改善の動力たるを得たならば實に我等の計畫の成功である。我等の希望と努力とは一に此所に繫る。—趣意書より抜く—

本部便り

一、別項記載の通り河井總幹事は三週間の旅行からお疲れの色もなく元氣でお歸りになりました。大阪京都には二回、其他神戸、廣島、福岡、下關と次から次へ、旅の忙しさにはなれていらつしやるとは申すものの誠にお忙しい旅行でした。其間講演を三十八回なすつたそうです。

一、ミセスウッドは岡崎姉と一緒に工場參觀、個人訪問等活動の準備に餘念なく努めて居られます。今日の日本にとつて殊に必要な此方面の働の前途に職員一同祝福を祈つて居ります。

一、渡邊幹事は夏期修養會の責任者として又加州問題、京濱學生青年會役員協議會など種々の會合の爲に興味と熱心とを以て盡して居られます當面の責任者を得るといふ事は何の働によらず其進歩を速ならしめるものでございます。

一、ミススコットは近々又關西に向はれます。未だ年若く經驗少ない日本の女子青年會に確固たる土臺と完備せる組織とを作り上げる爲、此方面に於る豊な經驗を傾けて居られます。先進國の長所だけを戴く事の出來る私共は、他の國々が經た失敗の歷史を繰り返す事なしに理想に達し得られる幸運を與へられて居るやうな氣が致します。

一、總ての事の實行を一手に引受けて、事務の方々は相變らず忙しい日を過して居られます。考へる人と行ふ人、此間の美しい調和によつて事業は滑かに速かに進んで參るのでございませう。（あさゐ）

友の便り

紐育　山本琴子

日本の思想界、婦人界は何かと變化して參ることでせう。アメリカの思想界も今混沌として或人々には暗のやうな感じを與へて居る事と思ひます。特に精神界の變化は危機に瀕して居るといつて差しつかへありますまい。今日健實な精神的經驗に立つて行くやうに盛んに叫んで居る牧界の先生達は昔の豫言者の風があると思はれます。世界の都ニユーヨークに東洋の一小孤島に生れた私のやうな者にも大きい世界を知らせて下れ（世界のなやみを見せてくれ、人類として人間を考へる考へ方を深めて下れました。個人として各人は神の前に最善なるものとなる權利と義務とがあり、又人間としてのあらゆる特權は自由に取るに任せられてあると同じやうに、國家も最上最善のものとなる力が與へられて居るのですから、先進國の歩いたあやまつた道を繰り返す考へなしに止めて、最もよいもの最き高いものを日本が世界に示してほしいとは私の小さい胸に燃ゆる愛國心の叫びです。御目に懸つて話ること伺ふ事が山程あります。何と私共は責任多き時代に生れてゐるのでせう生き甲斐のある生活をいたしませう。

今アメリカの精神界で最も叫ばれてゐる思想は彼の偉大な豫言者イザアの信仰即ち聖き（ホレー）遺殘者（レミネント）を神は用ゐてイスラエルを救ひ給ふとの確實なる光です。科學萬能の時代は過ぎて人間と人間とが初めて向き合つて各々其權利を主張し合ふとして居る今日、又それが勞資の爭鬪に遺憾なくそのきたなさをさらけ出してゐる今日、神の王國建設の必要をひしひしと感じるではございませんか。誰か此任に當りませう。神はホレーレミネントを用ひ給ふ思想が生れ出たのです。も一つは確實な精神的經驗をにぎれとの叫びです。唯に主觀的に己れの經驗を高調するのでなくして、信仰あつき者の共通の經驗を味ふといふ事です。それで宗教歴史、教會歴史、の研究が叫ばれ、時代を追つて我等の先祖等が信仰した事を知り彼等と共通な美しい經驗に生きると同時に彼等の知り得ない今日の時代の經驗に入つて行く事をすゝめて居ります。神の王國建設が教會内のみでなく各職業に工業に商業に各種の社會に叫ばれるやうになつた事はアメリカばかりでなく世界の美しい方面の一つでせう

こちらに參つてゐる學生は支那といはず、印度といはず南歐諸國、小亞細亞、其他歐洲諸國いづれの國の學生も共に女の學生は緊張して居ります。今は世界を通じて女の目醒める時らしうございます。家庭におし込められてゐた日本の女はもつともつと社會的に苦勞せねばなりません。

○　横濱　上野俊子

昨夕から齋藤先生譯のブラウニングのサウルをよみ始めました。實に新しき力と光とを與へられ喜んで居ります。

「成功よりも精神を貴んだ彼れには世間でいふ意味の失敗がなかつた。所謂不成功失敗挫折打擊の如きは彼にとつて好個の刺戟劑に過ぎない。」敎法師ベンエズラを歌つた有名な詩は詩人自身の自己顯現と見て差支へのないものであるが其一節

さらば來れ世上の圓滑を
粗くする一々のさゝはり
座らせ立たせずして唯行かしむる一々の刺戟
我等の喜び四分の三は苦みにてあれ
戰へよ、緊張を惜しむ勿れ
學びて苦を數へず
決行して痛みをつぶやく勿れ」

いろいろな思の中に祈り暮す日が幾日も續い

た後で、光にふれる喜びは忘れがたいのです。

○　紐育　勝山みさを

先生には御恙もなく御歸朝遊ばされ先日は神戸で御講演遊しました由、母より御話の内容迄委しく知らせて參りました。私は御承知の通り全く神樣の御導によりまして此國に參り、遠き異鄕にも同じ神樣の愛のうちに樂しい家庭生活を致して居ります。唯此家庭が神樣の御用の爲に用ひられる事が出來るやうに切に〳〵祈つて居ります。神戸に居りました時は及ばずながら學院や靑年會のお手傳ひをさせて戴いて、それによつて少し宛ても何か伸びる力を戴くことが出來ることを感謝致して居りましたが、當地に參りましてからは終日自分の事にのみあくせくとして居るのが何だか空のやうにも時々感ぜられます。女子靑年會雜誌をわざ〳〵御送り下さいまして誠にありがたうございました。おなつかしく拜見いたして居　ます。遠方迄お手數恐入りますが月々御送り下さいますやうお願ひいたします。當地に參りましてから早速當市女子靑年會にお世話樣になりましてお料理とお裁縫の組に入れて頂きましてなか〳〵有益でございました。日本にも早くこの樣に組織的な靑年會學校が建てられるやうにお祈り致します。

○　横濱　横澤つぎ

忙しく暮してゐます。然し善い忙しさにしたい心算です。根なき花を咲かせ實を結ばせぬ事のなきやう祈りつゝ働いて居ります。

○下ノ關梅光女學院靑年會

新綠したゝる美しき初夏の候と相成りました。御一同樣にはいよ〳〵御健かの事と御喜び申上ます。新學期の事とて何かと忙がはしくつひ〳〵思ひがけぬ御無沙汰を致しまして何とも申譯なき事でございます。何卒御許し下さいますやう願ひ上ます。私共この新學期を期しましていろ〳〵と計畫いたしましたなれど、未だ何分にも不馴の爲思ふ樣に參りませず、種々苦心努力致して居ります。何卒今後とも相變らずよきに御導き下さいますやう願ひ上げます。

消息

□齋藤その子氏　五月廿五日内村鑑三氏司式の下に法學士塚本虎二氏と柏木今井館にて華燭の典を擧げらる。

□ミスハーツホン　英學塾教授なりし同氏は近く御渡來の由。

□ミスダウ　紐育靑年會幹事養成學校學監なる同氏は五月九日來朝せらる。九月頃迄滯在の豫定。

□小村つや子氏　英學塾出身にして京都女子靑年會の委員なる同氏は同志社女學校に教鞭をとらるゝ事となりし由。

□ミスベスト　京都靑年會幹事の同氏は京都府立第一高女に英語教師として聘せらる。

□河井菊枝氏　河井總幹事令堂は目下御上京中、御元氣なり。

□加藤勝彌氏　加藤幹事の父君は追々快方に向はれし由。

□志立ヤナ子氏　志立タキ子氏の御長女は六月十九日長年の御勉學を終へて英國より御歸朝の由。

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度　前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子靑年界」定價及廣告料

定價郵稅共

	内地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料

一回揭載	
一行 金五拾錢	四分一頁 金五圓
半頁 九圓	全頁 金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正十年五月廿八日印刷納本
大正十年六月一日發行

發行所　神田區錦町一丁目十六番地　日本基督教女子靑年會　電話神田三六五二番　振替東京二一七二三番

發行兼編輯人　神田區錦町一丁目十六番地　河井道子

印刷人　芝區[illegible]田和泉町七番地　前川吉次郎

印刷所　右同　三成舍

KOBE

Ando San, Kobe office secretary, was married on the first of May, leaving our staff again depleted. Mrs. Miller's commercial classes are developing, and she is also teaching a popular cooking class. Miss Sills has two new classes of school girls who want special help in English.

Miss Onomi is preparing for publication a story of the life of Miss Dodge, containing the historial facts arranged in a simple fashion for those who have never heard them before. When ready, the pamphlet is to be sold at the Kobe College Annual Bazaar which is the great local event on the 21st of May, Miss Dodge's birthday. The proceeds of the sale are to go to a Service Fund, to be given, according to Miss Kawai's advice, for Central Europe Relief work.

On the 15th, Miss Kawai is expected, and a meeting of neighborhood leaders has been called, to hasten the starting of clubs in various districts, similar to the Harada Mura Club. A general membership meeting will also be held.

At the Board Meeting on the 4th, "Religious Emphasis in the Association" was the chief subject and in the discussion good suggestions were received. Mrs. Usa gave a fine report of her observations in Tokyo as delegate to the Annual Meeting of the National Committee, including the news that the Committee has voted to approve of Kobe's request (on which so many of our hopes depend) for a Health Physician to be sent from America. She wants every Board member to have her turn at attending the meeting of the National Committee, and to go every year herself!

The crowds who are thronging through the Hyogo Child Welfare Exposition show the increasing interst of Kobe in health matters. Many kinds of material have been collected from various volunteer organizations and the Ladies Patriotic Society are hostesses. Besides a good many pictures and posters, the Association has lent a doll, dressed in American baby clothes, and a baby's bed, American style, made in a "kori".

KYOTO

On May 7th the Secretaries of Kobe and Osaka came to Kyoto for the monthly staff meeting and conference. The morning was spent in discussion of "Sabbath Observance" and the afternoon in sight seeing, as it was the first time some of the secretaries had visited Kyoto.

Miss Kawai spoke at three large meetings in Kyoto April 30th and May 1st. At the first one four hundred students were in attendance and at the general meeting on Sunday more than four hundred and fifty women were present. Miss Kawai also spoke at the Doshisha church on Sunday morning and on May 17th returned and met the Cabinet of the Doshisha YWCA.

Kyoto is very fortunate in having a new office Secretary, Miss Suzu Suzumoto who came this month from Yokohama. Miss Suzumoto is a graduate of Ferris and was last year in the Social Service Department of the city office in Yokohama.

Dr. and Mrs. Ross of Union Seminary were dinner guests at the foreign residence recently.

On May 21st, the chairman of our Committee, Mrs. Ebina, will address a members' meeting in memory of Miss Grace Dodge. An offering is being taken for the children of Europe this week in memory of Miss Dodge.

The Rainbow, the English and the Post Office Clubs are among the picnickers this month. The latter on account of long hours were obliged to go after 5 o'clock in the afternoon They had their Bible Class under the trees near Chionin Temple.

tacts. It is hoped regular visits can be made there. Nine girls came the following night to join the Chorus.

The clubs are all flourishing and carrying on their own meetings with great ability. The Louise Club is increasingly becoming a club of real service. This month there will be a supper for Chinese girls, preliminary to organizing a club for them.

Ten girls will go to Lake Hakone for a week of camp this July.

The last meeting of the Board of Directors authorized the negotiations for the purchase of land on Otamachi.

OSAKA Y. W. C. A.

Letters from Miss Hard since her arrival home tell of a rather miserable sea voyage to America. She finds her family in fairly good health, but needing her, and she feels that her sudden home-going was right for their sake. Soon after she left in February, it was learned that we must soon lose Tsuchiya San as general secretary, as she expects to be married in early summer. The search for her successor began at once, but has not yet reached success Many problems of readjustment have come because of changes in the Staff.

One of the first big encouragements after Miss Ragan's coming was a successful meeting of the Educational Committee with every one of the six members present. Kono San's leadership as secretary of this department has had increasing success and at this committe meeting further reorganization of the educational work was planned. The night school course has been extended to three instead of two nights a week, new class divisions made, and the courses more carefully graded. It was good to know that the long-desired classes in Japanese subjects, "kokugo," were proving successful, for many girls whose first thought is to learn English need a better knowledge of their own language and literature. The day classes also came in for attention. When all the changes were in print in attractive new announcements, personal calls were made, bringing these class opportunities to the attention of many business men employing large numbers of girls in offices and factories. Many schools were also visited, as some of our classes are in the nature of continuation courses for high school girls. This campaign of personal cultivation has brought us many new girls. A day class in Foreign Sewing has again been started and the Foreign Cooking class keeps up large attendance and keen interest. We are especially glad for the coming of a group of girls from the Postal Money Order offices (Chokin Kyoku) which are not far from the Association. The new night school schedule includes one period a week for lecture and recreation work, which is proving of benefit.

Among the volunteer workers there are also many changes and the reconstruction needed in committee work because of this is taking much time and thought and consultation.

In welcoming Kawai San again to Osaka on her return to Japan. a series of three meetings was planned in March so as to reach the members and friends in widely separated sections. One meeting of course was at the Association, the others at Sumiyoshi and Hamadera. It was a great inspiration to hear Kawai San's message, from her extended knowledge of many countries in recent world-travel, and these meetings deepened the interest of old members and won new friends for the Association.

In April the Association gave a moving picture entertainment—"Helen Keller" and "Daddy Longlegs"—in the Kokaido, afternoon and evening, hoping to realize large receipts to apply on next year's budget. There was a heavy downpour of rain that day, and the publie is not so eager as formerly for moving pictures, it seems, so we were fearful of not making expenses. However, when all returns were in there proved to be nearly 750 yen to the credit of the Association.

The Annual Meeting was well attended, May 14, and Kawai San again gave the address. It was decidedly a young women's meeting, as the younger members were much in evidence, including a number of new girls. The result of Miss Steinmetz good training in part singi g on Sunday afternoons was shown in two choruses sung with fine effect. Four new Board members were elected.

evening, except for a brief business session, was alive with club songs and Association spirit. It was the first time that all of our clubs have come together for any one occasion but it was certainly a splendid success. The board members, the volunteer workers, and the secretaries who were there will not forget for some time that gymnasium full of happy, singing chattering girls who make the real Tokyo Y.W.C.A. Our next general 'get together'.will be in the form of an inter-club. Athletic Meet which is being planned for June 11th.

Tokyo Association is looking forward to its very first Gymnasium Exhibition on the evening of Saturday May 21st. Over one hundred tickets have been issued and the problem of where to put the guests while the classes perform is a real one, for every day discovers new people who wish very much to be guests at this first exhibition, and the floor space is decidedly limited. The one solution reached thus far is to allow spectators at the 'dress rehearsal' on Friday evening, so one might say we are really giving the exhibition two nights not one.

On Wednesday April 27th Yoshiko Kohori San slipped quietly from her suffering of the past few weeks into a new and larger Life, eternal. Tokyo Association had not seemed the same during the days of anxiety attending the illness of the girl who had brought always so much of radiant sunshine into everything she touched and with every day she is missed and longed for. Yet her going has made real in a way that nothing else could have, the triumphant faith that was hers and we feel that she will long live on in our midst in the influence that her life and death has had among the girls who knew her and had worked and played with her. At the request of her family a Christian service was held for her both in the home and from the chapel of Toyo Ewa School, of which she was a graduate. On Sunday last Tokyo Association made its monthly Sunday religious service a memorial service for her. The Rainbow Club of which she had been an active member had charge of this service. Rev. Kawajiri, her pastor, made an address which was a great inspiration to those who heard him and fter his talk several who had known her told of what she had meant both to the Association and to them personally. At the close of the meeting the girls were told of the plan for observing May 21st as Service Day throughout America in memory of Miss Dodge and her life of service and the suggestion was made that Tokyo Association also observe this day, to honor the woman whom they had not seen and the girl whom they had known and loved-two whose lives had held so much of thoughtfulness for others. It was decided to observe the day by personal acts of kindness done individually, but also to make a joint service on that day by taking to the little Polish orphans now in the city awaiting sailing, gifts of toys and flowers. Contributions are being brought in throughout the week but the two clubs with which Kohori San was connected will make the disposal of the gifts. Those who knew Miss Dodge feel that the sharing of 'her day' thus would mean added joy to her and that it will fill the day with new meaning to the girls of our Association.

YOKOHAMA

The moving picture entertainment, "Helen Keller," to be given May 20 and 21, has proved a means of getting in touch with every member, and of giving each group or organization within the Association an opportunity to help. The city has been pretty well canvassed by the girls, and the poster, designed by Miss Lillian Miller, has be n put up in all conspicuous places. The film of "Daddy Long Legs" will be given on the Bluff on the same afternoon. We have experienced many pleasant surprises in the interest and assistance that various business men have shown us. A side from the money which we hope to raise, we feel we have gained in a feeling of cooperation both within and without the Association.

The first week in June marks the date for our Bazar, which will be on a large scale of selling useful articles like zori, and kimono cloth, but the girls in the Association, too, are making many articles for sale.

A visit to a silk inspection house, earnestly asked for by some of the business girls, resulted in a very interesting informational trip, and the making of many new con-

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XVIII — JUNE, 1921 — NUMBER 6

NATIONAL

Miss Kawai has just returned from a three weeks trip to student and city Associations in the south, during which she made thirty-five talks. She has made one visit to the city Associations since her return, but this is the first extended trip she has made to the student Associations, which have been eagerly awaiting her visit.

On Saturday, April 23, a meeting of Y.W.C.A. Cabinets of Tokyo schools was held at the national house. The girls met in an all day session and they were so eager for this conference that they wanted to come "immediately after breakfast," according to a report of a teacher in one of the schools. On Saturday, May 20, a similar meeting of the cabinet members from Yokohama schools was held in the Yokohama Association. The leaders are much encouraged with the results of these conferences.

The Summer Conference Committee has been working very hard, with Miss Watanabe, to get a place to hold this year's conference. Most of the places available were in spots where the committee knew the girls would suffer from heat, so negotiations were started with the Y.M.C.A. to secure their conference grounds at Gotemba, with the result that the conference will be held there July 28 to August 5. Plans for a splendid program are being worked out and it looks now as though a very good conference will be the result, although it will be smaller in number on account of limited space at Gotemba.

Miss Caroline B. Dow of the National Training School in New York City arrived on the "Asia" on May 9 and will be in Japan for two or three months. Miss Agatha Harrison, new National Industrial Secretary for China, was also on the "Asia" and stopped for a visit of a few hours in Japan.

TOKYO

Our Commercial department is showing steady increase in interest and in enrollment. We have found it necessary to rent two new typewriters so that we now have six in all, but they are in constant use and more could be used to decided advantage. A new shorthand class has opened with six enrolled. We have learned recently that the Y.M.C.A. has frequent calls from women who wish commercial work and they are now cooperating with us by giving out our literature from their desk, as they try to turn women from their door to ours.

Mrs. Suzuki made a trip to Kamakura recently, securing a cottage for our summer work with business girls. The cottage will be used as in former years during July and August for week ends for girls who must work on in Tokyo through the hot months. Our work with business girls has grown so during the past winter that the summer work promises to be far heavier than usual. We are delighted at our good fortune in securing the cottage, as all reports tell of their scarcity this season and of exorbitantly high rents.

Tokyo Annual Meeting was held on Saturday May 7th from four until nine. In spite of a heavy and steady downpour of rain the gymnasium was filled to capacity. Mr. Sugimura who has been on diplomatic service in both France and South America addressed the members on the subject of international relationships and his address was followed by a very interesting talk by Mrs. Gauntlet of the W.C.T.U. After the program which included also music by the Misses Cunningham, the whole company enjoyed supper together. All of the clubs were represented and the remainder of the

女子青年界 第拾八巻第六號（毎月一回一日發行）
大正十年五月廿六日印刷納本 大正十年六月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可



一部定價二十錢